07年度　コラムプラネット　第3セッション

音

エントリー作品数　51

上位　16作品　をお届けします。

■そして船はしずかに地上に降りる。名残のセッション「想」を奏でながら。
■ご投票は3月2日の30時までにどうぞ。

テーマ：音

投票総数：222件

順位	ポイント	投票数	作品タイトル	作成者	作者ｺﾒﾝﾄ	コメント数	最新投稿時間
1位	48	18	ある朝の光景	紫雲	有	28	1/6 18:22
2位	39	16	ハルの歌	mu	有	25	2/2 21:31
3位	21	8	手と耳と	活	有	19	1/7 10:24
	17	10	バイブ	ロココ	有	25	1/4 1:14
	17	9	俺の魂の音を聞けえっ！！	unknown	有	27	1/4 3:23
	16	9	夙川	シマエナガ	有	16	1/4 1:28
	16	7	オットのオト	ピチョット	有	24	1/4 1:53
	15	6	空を見上げれば	contax139	有	14	1/4 0:59
	14	8	幸せの音色	るらら	有	30	1/4 1:26
	12	5	足音百景	輝	有	16	1/4 3:23
	12	6	星のおと	Bloomoon	有	19	1/4 11:21
	11	7	子守唄	でもどり	有	15	1/4 1:43
	11	5	目覚まし時計	クリリン	有	20	1/4 3:30
	11	5	命の音	がらがらどん	有	22	1/4 2:12
	10	5	足音	go19	有	17	1/6 18:10
	10	4	休みの「音」	いそしぎ	有	18	1/4 3:6

9	5	古今「音」物語	スマイリー	有	18	1/6 22:34
9	7	無音飲食	RIRI	有	33	1/6 18:42
9	5	waltz_for_debby	ノエ	有	19	1/4 17:18
9	6	ラジオCMからのひとつの考察	tkm	有	17	1/4 1:48
8	4	壮大なる難聴	ken	有	19	1/4 2:39
8	4	なんの音	pooh	有	14	1/4 0:48
8	3	ガラスの音叉	鳥	有	18	1/6 23:55
7	4	星降る夜の千の声	めふめと2世	有	15	1/4 1:26
7	3	不協和音	kunipi	有	23	1/4 3:29
7	3	魂のフォルテッシモ	はつね	有	18	1/6 21:16
7	3	「地域アイデンティティとしての音」インタビュー調査	プーギン	有	20	1/4 17:54
6	4	お茶の時間は旅時間	インギリー	有	14	1/3 0:18
6	3	「ゴー」音の中で暮らす	sum1	有	16	1/4 4:40
6	4	海、静寂、浜辺にて	kirie	有	14	1/4 11:28
5	3	my stage	みつきんぐ	有	15	1/3 22:55
5	3	しあわせの音色	わがし	有	15	1/4 22:33
5	2	ヒトリノ朝	bagi	有	17	1/4 0:12
4	4	夜のお仕事	桜子	有	16	1/3 22:43
4	2	おなら	３匹ヤギの	有	22	1/6 20:3
4	2	プライド	アボガド	有	18	1/4 1:41
4	2	江戸隠密五人衆	ハイパー・ワイハー	有	17	1/5 0:43
3	1	階段を鳴らす	まち	有	11	1/3 23:45
3	1	ネバーランドへ	琥珀	有	20	2/6 1:16
3	2	大きな古時計	SAWAA	有	16	1/3 21:57
3	2	ベルリン・天使の詩	けろた	有	10	1/4 1:55

3	3	生を伝える音	星イッテツ	無	12	1/4 0:25
2	1	聴点で考える	サンダーバード	有	16	1/4 1:38
2	2	音楽と思い出	vista	有	16	1/4 2:0
2	1	ある政治家の挑戦	きゅうぴー	有	14	1/13 8:14
2	1	音楽について語るときに僕の語ること	バートルビー	有	16	1/4 4:11
1	1	音と気持ち	daikonsalada	有	16	1/12 16:46
1	1	私の恋の応援歌	貧保 耐三	有	18	1/6 18:52
1	1	騒音注意	Julio	有	17	1/4 0:37
1	1	あいつ	316L見習	有	17	1/4 3:45
0	0	喧騒後の虚しさ	シュトルムティガー	有	12	1/4 3:18

ある朝の光景

総合順位：1位
合計ポイント：48 Point
作者：紫雲
作者コメントを読む

私は駅にいた。

電車に乗り込むやいなや発車ベルが鳴った。
しかしいつになっても鳴り止まない。それでもなぜか私はおかしいとは思わず、横にいる友達に
「止まらないね。」
と言った。
彼はこう答えた。
「止めないからだろ。」
その瞬間、今まで発車ベルだったはずの音が突然目覚まし時計のベル音になった。

私はベッドの上にいた。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
ken 12/18 11:46	おもしろい。ショートショートしてもいいですね。
contax139 12/19 20:43	すごいです。 こんな短くまとめられるとは。非常に勉強になります。
輝 12/20 18:18	「止まらないね。」 「止めないからだろ。」　　この淡々としたやりとり、好きです。 この一言だけでこの友達がどんな奴なのかビジュアル付きでイメージふくらんでしまいました。 ４コマまんがのようなシンプルな楽しさがあります。
きゅうぴー 12/23 15:17	一言コントですね。こんなのもありなのか・・と思いつつ、でも正直読みやすかったです。
kirie 12/23 23:18	他の方が仰るとおり、この短さでこれだけ表現できるとはびっくりしました。 自分はいつも、文章が長々としてしまうので見習いたいです。

ロココ 12/26 1:23	思わぬ展開だったけれど、ストンとうまく着地していて、うまいなぁと思いました。
かぴばら 12/26 16:34	こういうのありますね。 「駅にいた」と「ベッドの上にいた」 「止まらないね」と「止めないからだろ」 この２つの絶妙な対比がこの作品のすべてで、よくまとまっていると思います。
Azalea 12/26 19:37	このシュールさ、たまらないです。 この短さに、うまくまとめていてとても面白かったです。 アイディア勝ちといったところでしょうか・・・。
みつきんぐ 12/27 13:22	面白い！！ こんなに短いのに、すごいです！！
イッパイアッテナ 12/28 13:43	まさかの夢落ち 四コマ漫画に通じるシュールさ、大好きです。
あお 12/28 16:15	こういう現実とつながった夢よく見ます。うまくまとまっていて面白いです。
ゼットン 12/28 16:17	そっち系の目覚まし音なんですか。 僕はあの音が嫌いで、携帯の目覚ましにしています。
はつね 12/28 23:44	あるある、といった感じの小話ですね。 これだけコンパクトにまとめられるのは素晴らしいと思います。
３匹ヤギの 12/29 2:14	ドキリとさせられますね。
けっちゃん 12/30 15:54	当然隣には、その彼がいたんですよね？ え、妄想？？
Eisen 12/30 23:33	意識してかしないでか。 上下方向のシンメトリーに、かなり近い構成になっています。 このクールさの一端は、そのあたりから来ているように思います。
茜 12/30 23:43	けっちゃんさんの妄想（あえてコメントと呼びません）に噴きました。 これ、４コマ漫画にしたいですねー。うまいと思います。
星イッテツ 12/31 2:52	短いのに、すごいです。
アボガド 12/31 3:4	まとまっていて、面白かったです。
がらがらどん 12/31 11:27	うまいっ！
daikonsalada 1/2 17:27	面白いです。 できれば、何を言いたいのかを解説してほしいですね。
go19 1/2 18:15	はじめと結びのつながりがキレイで良いですね。 自分も最初に読んだとき「男ふたりで寝てたってことか？」と、ちょっとだけ考えました。 たぶん、これは作者の方の意図とは違うんだろうと思います。これを避けるには、会話の相手は友達でなく駅員でも良かったかもしれないと思いました。 とても、面白かったです。
ほろほろ 1/2 22:47	ホントに、４コママンガのような落とし方ですね。 どうもありがとうございました。
ほろほろ 1/2 22:48	追記。 せっかく４コママンガとしてきれいなら、 タイトルももっと簡潔でニクいやつにしてもいいかもしれませんね。

unknown 1/2 23:39	短い中にネタの起承転結がきっちり織り込まれていてすばらしいです。ネタも面白いですし。 私はいつも話が長くなってしまうので、こういう文章構築力を持っている方はうらやましいです。 １つ気になったのは"それでもなぜか私はおかしいとは思わず"というフレーズです。 通常ならばここはおかしいと思うところで、このフレーズはその逆なわけですが、 その後に続く話は通常通りでも十分通じるのではないかと思います。 つまり、ここで"私"が"おかしいと思わなかった"ことがその後に反映されていないと思ったのです。 全体が非常にいい出来で、細かいところをつつくようで申し訳ないのですが、 出来れば作者コメントで、ここをなんで"おかしいと思わず"としたのかを聞きたいです。
けろた 1/3 0:31	ベッドの上にいたという結末で、どんな矛盾も解決するんですね。最近は、発車メロディが多いから、そういう音の目覚まし使っていると同じような経験するんでしょうかね。おもしろかったです。
mu 1/3 23:46	この短さで、すぱっと音というテーマを書ききってくださり 読み手も非常にすかっとさわやかな気持ちになります。
イッパイアッテナ 1/6 18:22	一位おめでとうございます。 簡潔な短い文章で、起承転結＋笑　納得の一品でした。 携帯電話で書くという話ですが、僕も携帯電話で文章書いたことがあって、やはり同じような感想を抱きました。 入力が遅くなるというのは幸いスペックが足りているために起きなかったのですが、画面が小さいのと幅が狭いために、一文書いたら画面一杯になっちゃうので、あまり装飾とかつけた長い一文を書けないんですよね。(あと、たいてい段落は画面外だから話を確かめるのが大変。) 紫雲さんの書いたコラムくらいの分量が、携帯で書くとちょうどいい感じだと思います。 ＞go19さん 電車の中に乗り込んだのだから、駅員さんに聞いたり、見知らぬ人に聞くよりも、友人に聞くという設定のほうが自然な気がします。

ＴＯＰへ

ハルの歌

総合順位：2位
合計ポイント：39 Point
作者：mu
作者コメントを読む

ハルはおそらく世界で一番かわいい子供である。私の甥っ子だ。今年８歳、小学校の２年生だ。

大抵、ハルは学校が終わった後、まっすぐにうちに来て、夕方までいる。（時々夜遅くまでいることもある）
ハルの母、つまり私の姉は仕事で忙しく、ハルの家から学校までの通学路上に私のマンションがあり、おまけに私が雑誌にコラムなどを書く物書きのような仕事をしているので、よっぽどのことがない限り家にいるからだ。だから大げさにいうのではなく、私がハルを半分そだてているようなものだと思う。

大抵私が文章を書く傍ら、ハルは絵を描いたり、本を読んだり、宿題をしたりする。
仕事が一段落すると、一緒におやつを食べながら、今日学校であったことなどを伝えてくれる。
彼はとても静かなこどもだ。
しかし、実際はとてもおしゃべりで好奇心豊かなこどもなのだ。
ずっといっしょにいるとそれがわかる。
私が、彼の言語を理解できるようになったので、最近はもっぱら質問攻めである。
(なんで、あーちゃんはまことさんと結婚しないの) (うるさい。ほっとけ）とか
(なんで、恐竜はほろんだの) (みんな風邪をひいてしんじゃったんだよ。)とか
(なんで、うちにパパはいないの) (長くなるので省略。）とか。
仕事には多少差し支えるが、子育ての喜びというか、成長の手応えを日々実感できる大事な質問タイムである。

ハルの母は私の３つ上の姉で、名前をマキという。
彼女は小さなころからピアノが得意で、大人になってそれを職業するようになった。
活発で明るい彼女は自分のバンドを率いて活動している。営業も自分でこなし、仕事は多忙を極めている。

ハルに手伝わせて晩ご飯の準備が出来るころ、姉はハルを迎えにくる。
「ごめん。また遅くなっちゃった。」と笑顔でやってきて、きっちり夕食を食べて帰る律儀な女である。
まあ、でも、三人で囲む夕食の雰囲気、決して嫌いではない。
大抵ソファで眠りこけたハルを抱いて、ほろ酔いの姉は帰っていく。
私にとって、これらの日常が守るべき幸せなのである。

そんなある日のハルからの質問タイムである。
(ねぇあーちゃん、音楽ってどんなもの？音ってなに？)

ついにきた。この質問。

ハルの耳は聞こえない。
赤ん坊の時の病気が原因で、聴覚はほぼ100%失われてしまったのだ。
その事実を知った時の姉の哀しさをどう文字にすればいいのか、私にはわからない。
ハルが生まれる前から、モーツァルトを胎教で聴かせ、幼児用の小さなピアノを買いそろえていた姉。
神様はなんて意地が悪いのだろう。
いつの間にか、姉は仕事の一切を家に持ち込まないようになった。
ハルと姉が共有できないものを、共有できない哀しさにハルが気がつかないように。
しかし、来るべき時はついに来てしまった。

ハルに音を教えること。
今までの質問のように適当に答えるわけにはいかない。
「音っていうのはね、この空気中の小さい小さい粒がみんな同じようにぷるぷる震えて伝わる信号のこと」
「音楽っていうのはその音をきれいに整理してつなぎ合わせたお話みたいなもの」
と言葉を尽くしてみるが、ハルは納得がいかない様子だ。
とりあえず私は、放課後の時間を利用して、
その1. 大音量で音楽を聴かせる
その2. コンサートに連れて行く
その3. 楽器に触らせる
という音楽レッスンを行うことにした。
もちろん姉には内緒で。

結果
その1.大きなスピーカーがぶるぶる振動することは、身を以て理解した。スピーカーにハルがべったりと抱きついていたため店の人に追い出される。

その2.クラシックコンサートを最前列で観覧。金色のきれいな楽器の絵を描いてご満悦の様子のハル。後半はすやすや。

その3.家にあった古いクラシックギターを引っ張りだす。
（ハル、一緒にぶるぶるしてごらん）とハルの手をギターのボディに触れさせる。
（くすぐったいだけだよ。）
（一緒に声をだしてみて。）
「ジャーン」「あーぅ」

鳥肌がたった。人間も楽器と共鳴するものなのか。ハルはきちんとギターのコードと同じ音を発した。
いとも簡単にハルは壁を乗り越えてしまった。

（ハル、それでいいの！できるじゃない！！）
がしっと抱きしめ、頭をなでさする私の興奮についていけないハルは、曖昧な笑みを浮かべされるがままである。自分が何を成し得たかも理解しないままに、その後、数時間の練習で、ハルはチューリップの旋律を歌えるようになってしまった。
現実はまったくなんてあっけないものなのだろう。

その夜、仕事から帰った姉に、ハルの歌を披露した。
途中から、姉の目からとめどなく涙が流れた。
わぁわぁと声を出して、鼻水も出して姉は泣いた。
ハルを抱きしめて「ごめんね。ごめんねぇ。」と姉は泣いた。
きっと８年分我慢していた涙を全部出す勢いで彼女は泣いた。
ハルもつられて泣いた。

もう完全な部外者になってしまった私は
ちぇっ、親子には所詮かないっこないやと一抹の寂しさを噛み締めつつ、

このいとしい人たちを守っていかなければと、また決意を新たにするのであった。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
活 12/17 12:14	大変感動的な内容で、あまりに内容が感動的過ぎて 作者が、文章が高揚しすぎている気がします。 テンションが高すぎて、にわかに近寄れなかったので あとで一人の場所でゆっくり読みたいと思います。 聴覚障害者の教育関係に興味がある方なら ご存知のことと思いますが、 山本おさむの漫画「遥かなる甲子園」「わが指のオーケストラ」 をお薦めします。 私はたっぷり感動した作品ですので、余談ながらひちこと。
ピチョット 12/17 13:38	素敵な物語でした。甥っ子に対する愛情があふれていて、作者のあたたかさが伝わりました。正直、聴覚障がい者にとっての音、視覚障がい者にとっての色は、私には想像がつかない世界です。でもそれが日常である場合感動的にとらえすぎてもいけないのかとも思いました。先日梯剛之さん（盲目のピアニスト）のコンサートを聴きに行きましたが、欲のない音に感動しました。(予談ですが・・・)
ピチョット 12/17 13:40	予談(誤）→余談(正）　m(_ _)m
SAWAA 12/17 14:32	ヘレンケラーを思い起こしつつ、読ませていただきました。 物語としてちゃんとまとまっていて、とても安心して読めました。 耳が聞こえない人が音を知るということ、その時の世界の広がり、感動。 そういったものがしつこくなくしっかりと表現されていたと思います。
琥珀 12/17 14:52	本当に「感動・感動・感動・・・」です。 　かつて、聴覚障害の小学生、高校生と関わったことがあります。「音」というお題を見たとき、その体験に根ざしたコラムを書こうかと思いましたができませんでした。特に小学生（ハルちゃんと同じ２年生の男の子、いつも笑顔・・・・）とのコミュニケーションに悩んだ日々が思い出されます。 　また、現在も「失語症」という障害をお持ちの方々との会話パートナーというボラをやってますが、同様に悩みの日々です。 　・・・私的な話になってしまいました。ごめんなさい。 　作者さんに、コミュニのコツなど教えていただきたい、と真剣に思います。 　＞活さん、山本おさむの漫画２冊、読んでみます。
活 12/18 18:28	今回積極的にコメントしてます活です。 琥珀さん：絶版か、文庫が出ているかだと思います。 　「遥かなる甲子園」は所蔵しておりますので、 どうしてもの折はご相談ください。（先生経由ででも。）
めふめと２世 12/18 20:16	ノンフィクションなら問題ないと思うけど、フィクションだとすれば、身体の障害を欠落の記号として安易に扱うメディアが多すぎるから少し気になるところかな。欠落→回復という物語の形式が含む暴力性も注意したいところ。回復の過程もこんな簡単なのかな。 ノンフィクションなら全然問題ないです。

琥珀 12/18 21:3	＞活さん 　ありかとうございます。「わが指のオーケストラ」については、地域の図書館にありましたので、とりあえず予約を入れました。１と２だけでしたけど。「遙かなる甲子園」については「大分県立日田三隈高校野球部」という副題が付いた本があったのですが、これは原作本でしょうか。もし見つからなかったら、よろしくお願いします。 ＞めふめと２世さん 　さすがです。作品中の「現実はまったくなんてあっけないものなのだろう」の一文はアウトだと思います。 　けれど、こうした作品を、ここで、挙げることの意味もあるのかなと思ってます。 　めふめと２世さんのコメントで、論議が高まることを期待。 　これまでの「リハビリ」の根本的なおかしさと、新たなリハビリ医療の、遅い進行に苛ついてもいます。 　残念ながら、それを表立っていうことが憚られる現実もあり。 　いうのはやだけれども、少し障害を持つ者の本音です。 　こうしたことを考える材料としても、自身の悩み解決のヒントとしても、山本おさむ氏の漫画は、是非読んでみたいと思います。
めふめと２世 12/20 16:31	>>琥珀さん >これまでの「リハビリ」の根本的なおかしさと、新たなリハビリ医療の、遅い進行に苛ついてもいます。 >残念ながら、それを表立っていうことが憚られる現実もあり。 >いうのはやだけれども、少し障害を持つ者の本音です。 最後の一文は、障害のないものがこの作品を語ることを難しくするかもしれないね。琥珀さんの始めのコメントを読む限り、そういう意図ではないと思うし、過敏に反応することはないと思うのだけど。 僕としてはその前の文章について少し説明してくれるとよい気がする。作品に対するコメントとはずれてくるからだめなのかな？
琥珀 12/20 18:48	＞めふめと２世さん ズレズレの返事になりますが、障害に関する私見を書いてみます。以下からご判読いただけると幸いです。 ・障害の価値：リスク収集の材料。高齢社会・多文化社会に向けて新たな利潤獲得ネタになる可能性 ・現状： 　フツーの人の受け止め方：「見える障害」と「見えない障害」で大きな違いあり。前者は、ご自身のアイデンティティ保持の材料、それから同情、娯楽ネタ・・・後者は個々のケースで違い大。 　医療・介護者：すばらしい活動をなさっている方も多い。宗教チックになってしまうケースもあり。いろんな要素が絡む場合が多く、まとめきれず（ごめんなさい）。リハビリ医療は進んでいるが、社会復帰を目指し、使える部品の活用を基本とした指導が多いように感じる（私の誤解かもしれません。専門の方がいらっしゃいましたら訂正お願いします） 　市場：たとえばユニバーサルデザインの市場規模は広がりつつあるが、基本は遅滞。 ・課題：まずは、冒頭に示した「障害の価値」活用のベース作り（←この意味で「作品」化は意味あり：私の最初のコメントの意味）。そして次に修正（めふめと２世さんのコメントの段階・論議作業等含む）・・・両面からの丁寧な修正必須 ・マイ障害：ごく軽い、見えない障害。これを得た後、新たな体験や気づきや出会いに恵まれトクした気分になることあり。 ・余分な一言 　「近視も障害ではないか！めがね市場は盛況だぞ！」 　　（反論期待）

めふめと２世 12/20 20:48	>>琥珀さん ありがとうございます。なるほど。。。読ませて頂きました。 で、作品と外れないように戻るとするなら >・課題：まずは、冒頭に示した「障害の価値」活用のベース作り（←この意味で「作品」化は意味あり：私の最初のコメントの意味）。 やはりここなのかな。「障害の価値」活用という意味はわかるのだけど、そういう視点で「作品」を評価するとしたら、それは戦略的にそうしてる作品じゃなくてもいいのかな？ 僕は「障害の価値」活用が戦略的でありアイロニー（またか・・）であるという悲しさが、どこかチラリとは見えて欲しいのだけど。だから、この作品がフィクションだとしたら、それがないとこが気になるところです。 これで作品に戻ったかな。。。
シマエナガ 12/25 10:44	文章が素直で、しかも説明が論理的になされているので、かなりの長文にも拘わらず、すっと頭に入りました。 　内容の力も大きいと思いますが、非常にスムーズに読ませていただきました。
活 12/25 19:44	深まってきた（思ったよりコメントがないけど）ので改めて議論に参加します。めふめと２世さんのコメントより、この文章をフィクションと仮定します。 まず、1500字程度のメディアでこの題材を料理するには、どちらかに偏る必要があり、作者が「解放-感動」側に切ったことは一つの論点です。-「障害の価値活用」とは挑戦的な言辞だと思います。 感動を用意するための設定として障害を持ち出すことは、危険です。フジコヘミングや梯さんをうらやましいという音大生がいるという、記事もありました。障害に勝手な物語を読んでしまう読者を試しているということでしょうか。 私は感動へといたる複雑さ、あるいは感動の後のやるせなさ、そんなことを含めて、改めて「遥かなる甲子園」を推薦。 そこはさておき、単純に文章表現について感想をいうと、 テンションの高さ、感動のための記号「声」「涙」「！」が直接的に連発されていることが、読者を遠ざけます。（あるいは強烈に引っ張るか。）表現力という意味では私としては否定的な見解です。 読者のうちから沸きあがる文章ではないなあと、いう感想です。 感動ものの文章はむずかしいのよ。
ほろほろ 12/25 21:12	かっこの中のセリフは、 文字で書いてやりとりをしているのかとも思ったのですが、 最後のかっこから察するにどうやらそうでもないようです。 ハルとのコミュニケーションがこの話の大きなキモであると思うので、 摩擦やすれ違い、そして通じ合う事のディテールをきちんと描くと良いと思います。
paco 12/28 17:52	聴覚が弱いぶんだけ、他の感覚が研ぎ澄まされていく人間に成長するような気がします。何より人の痛みが分かる大人に育って欲しいです。
Azalea 12/29 0:19	うまく描かれていると思います。 批判を恐れずに書くのであれば 障害を持つ方についての文章っていうのは どこか哀れみを持って読みがちで、だからこそ、安易な感動につながりがちです。 ここでは、短くまとめることが義務であることもあって 感動にいたるまでには書ききれてない印象が残りました。 本当にそんな簡単に？　というコメントはその現われだと思います。 これが事実であっても、そうでなくても 短い中に詰め込むには重い題材で、 （ほろほろさんの言うとおり、ディティールが重要なのです） ここで描くものとしては選択を間違ったかなとも思います。 文章はとてもうまく、きれいに書かれていると思うのですが・・・。 以下は、蛇足ですが……。 障害について 見える障害見えない障害という点で、聾唖者と全盲者は違いますよね。 白杖を持っている人は目が見えないですが、耳の聞こえない方は 見かけ上何もないはずです。 ですから、耳の聞こえない方は世間ではなかなか見かけないような気になっているのかなあなんて思いました。

	福祉関係は詳しくないので、これ以上は書きませんけど。
大黒様 12/29 16:2	すごい良いです！ 素直に言いお話だなと思いました！ 実話でしょうか？
琥珀 12/29 22:22	＞活さん 　「わが指のオーケストラ」１～４、涙しながら読みました。いい作品だと思いました。 　まず、みえてきたのは「山本おさむ」です。過去の事実は無数・・・そこからある事実を選択し構成し絵と文字で表現することが過ぎると、作者ばかりが目立つのかもしれません・・・ 　批判的な書き方に見えるかもしれませんが、多くの方に「聞こえない」「聞こえにくい」という障害と関連史実を広報したという点で優れた作品だと実感です。 　「ハルの歌」は同じ意味で、つまり「広報」効果という点で「感動」しました。過剰ありなんですが、まあいいじゃあないですか・・・ 　コラムプラネット「文章表現論」の範囲や境界を考えさせる意味でも・・・ 　論点ばらけますが、 　障害にとって、今、必須なのは「広報」なんです。 　それから「遙かなる甲子園」は１～４読了・・・５～８が手元にくるのは来年以降になりそうです。読みます。
Eisen 12/30 18:39	たぶん、私みたいに理解の浅い人間が論ずるべきではないのでしょう。障害、それ自体への言及は避けさせていただきます。 そしてその言及を避けるなら。私のこの作品への評価は◎です。 まず語り口が内容を活かしている。単純な文章力も高いと思いますし、ちょっと淡々としながらも素朴な感情をたたえた、この書き味は素晴らしいと思います。 また、情報を開示するタイミングも練られている。ハルや姉、私についてのいろいろな情報が、そこここに散りばめられている。一度にではなく一つずつ、巧いタイミングでさり気なく知っていくから、それが感動の演出となる。高等技術だと思います。 一点気になったので、活さんのコメントに関連しまして。 《テンションの高さ、感動のための記号「声」「涙」「！」が直接的に連発されていることが読者を遠ざけ》ると、活さんはおっしゃっていますが……私としては、この作品内のもつ雰囲気の中にあって、これらは有効にはたらいていると感じます。 こういった「記号」の使用は、たとえば子供向け漫画・小説によく見られる手法です。子供たちから見ればその方がわかりやすいし、自分達が普段見ている世界に近いのでしょう。 あくまでも大人の口調を保ちつつも、ハル君に合わせた目線を演出する。感動を演出するためというよりはむしろ、こちらのために使っているのではないかなぁ……と、これは好意的な推測かも知れませんが。
茜 12/31 0:52	思わず感動してしまいました。なんだか、ほんわりあったかいものが心に残ります。 いつの間にか、あたしはマキの視点で物語を見ていました。 共有できないと思っていた。でも、できる。可能性はある。 彼女にとって、それは大きな救いだったのではないかと思います。 作者さんの目論見とは違うかもしれないのですが、これは「障害者のための物語」というよりも「健常者のための物語」なんじゃないかな、と、あたしは思いました。 車椅子だから駆けっこできないなんて、あきらめて悲しまないで。何らかの形で、共有し合えるものがあるはず。そんなメッセージを感じました。障害を持つ人とかかわる人への励まし、でしょうか。 ハルに悲壮感がなかったのもありがたかったです。悲壮感があったら、健常者の立場からは入り込む余地がないように感じてしまうんです。「かわいそう」って思ってしまう。ハルを「かわいそう」って思うより「かわいい」って思えたことが、この物語の読み心地のよさにも寄与していると思います。 議論すべき点は多いでしょうが、読み終わっていい気分になる作品って、なかなかないのでよかったです。
スマイリー 12/31 17:19	先日、年末恒例の第九を聴きました。第九が初演された時、ベートーヴェンは全く聴力を失っていました。しかし彼の頭の中ではまるでこの世とは思えぬ穏やかな第三楽章のメロディが流れていました。そして第四楽章の“歓喜に寄す”へと・・・。きっとハル君の中にも素晴らしい歌が流れているのでしょうね。

kunipi 12/31 22:28	おそらく、「光」がテーマなら、 誰しも一度は光の届かない世界を イメージすると思いますし、 今回のように「音」がテーマなら 音のない世界をイメージするだろうと思います。 そういった意味において、この作品の位置づけは とても重要ですし、またよくできていると思います。 あーちゃんの「このいとしい人たちを守っていかなければ」 という決意を、ところどころに感じることができて とてもいいな、と思いました。それは障害の有無ではなく。 守るべき大切な人は、近くにいるよ、と と気づかせてくれたことも収穫でした。 あたたかい気持ちになった作品です。
unknown 1/3 23:27	とても素敵なお話ですね。お姉さんが泣き出すところで私もジーンと来てしまいました。 確かに少し駆け足かもしれませんが、それでも十分感動できる文章だと思います。 茜さんの、"ハルに悲壮感がなくてありがたかった"という意見にすごく賛同します。 悲しそうな面を見せてしまうと、感情が"かわいそう"にもっていかれてしまいますよね。 この文章は全編辛くならずに読ませることが出来ている点でも、非常に上手だと思います。
King　Power 1/4 1:51	内容については、皆さんが議論されているのでお任せするとして。 最初の ハルはおそらく世界で一番かわいい子供である。 が、なんか好きです。引き込まれます。
琥珀 2/2 21:31	>活さん 　「遙かなる甲子園」、読みました！ 　キーワードは「自由」ですね。 　「自由」は私の永遠のテーマです。

ＴＯＰへ

手と耳と

総合順位：3位
合計ポイント：21 Point
作者：活
作者コメントを読む

「私の持っている技術は、全てあいつらに伝えましたよ、社長。
大丈夫、あいつらは立派な『オザワ』の技術者だ。私が保証しますよ。
私もすっかり歳です。そろそろ、お暇をいただくわけにはいかんでしょうかね。」

技術者として30年間勤め上げた薮内は、小沢社長に4度目の談判をしていた。今まで3度の退職願を納めさせた社長も、今回は押し切られた。創業以来この工場を守り続けてきた同志が退職することで、社長も決断を下した。
「そうだな、それなら俺も、この辺が潮時だろう。倅に後を託して、隠居することにしよう。今日からはもう社長と呼ばないでくれよな、ヤブ」

小沢と薮内、同郷の隣村から出てきた二人が、偶然同じ工場に職を得たのは50年近くも前だった。二人は小さな部屋に同居し、一日も早く一人前になろうと切磋琢磨する仲となった。競い合って高い技術を身に着けていった彼らだったがやがて、技術に長けるが人付き合いが苦手な薮内と、客とのコミュニケーションは良いが詰めの甘い小沢との性格の違いが、仕事の上にはっきり現れるようになった。

薮内はより高い技術を求めて工場を移籍し、小沢は営業経営畑に回った。小沢が家庭をもち、同居を解消すると、二人は日々会うことも、連絡を取ることも無くなった。それぞれがそれぞれの眼前の仕事に没頭し、10年の月日が過ぎた。

小沢が独立を考えた時、真っ先に声をかけた相手が薮内だった。薮内は10年ぶりの再会にもかかわらず直ちに賛同し、会社の設立に協力した。二人とも、その道で認められている確かな物を持っていたので、当初から工場の経営は安定した。オザワ社長と薮内、それぞれの妻と若い3人の職人。小さな工場だったが、他社ではできない難度の高い仕事と品質で、「困った時の『オザワ』・『神の手』薮内」と元請から高い信頼を受けた。

引退した二人は囲碁を始めた。「いまさら碁会所なんていけねえよ、俺たちみてえなヘボは。落語「笠碁」の旦那たちみてえなもんさ。」などと自嘲しながら、工場の事務室の隅に陣取って額をつき合わせて指していた。
お茶を運ぶ事務職員に軽口を言う以外、二人は特に会話をするでもなく、静かに、おだやかな微笑を浮かべながら指していた。ご隠居達の道楽を、社員は黙って認めていた。

「オザワ、次の手ちょっと、待っててくれ。」
いつものように声をかけて席を立ち、薮内は手洗いに向かった。脇のベンチで休憩していた職人と二言三言言葉を交わして席に戻り、次の手を指した。しばらく無言の差し手が続いた。
30年間聞き馴染んだ工作機械の響きが二人を包んでいた。

結局、薮内がその盤を制した。
「さあオザワ、今日は俺の勝ちだ。お前のおごりで一杯やって帰ろう。」

ゆっくりと立ち上がった薮内を見上げて、小沢が言った。
「ヤブ、ずるいんじゃねえか、俺をおいてお前だけ仕事しやがった。機械の音が変わったことに気がつかねえ俺だとでも思ったか？　便所に立つふりなんぞしやがって。」

猫背気味にコートを羽織りながら薮内は答えた。
「『神の耳』が聞いてるぞ、と、あいつらに言っただけよ。お前は人の言葉と機械の音を両方理解する『神の耳』を持っている。みんな承知しているさ。そこに座っているだけで、お前もちゃっかり仕事をしてるのよ。さあ、倅に日当もらって、今夜はたっぷりご馳走してもらおうじゃねえか。
ずるいのはお前の方だ。」

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。
コメント登録

投稿者	コメント
ピチョット 12/19 6:19	大人の物語という気がします。そこにはどたばたもなく、ギャグも飾りも無いけどどっしり存在感を示す作品だと思いました。音を直接ださずあえて神の耳から音を引き出す。碁をさす音さえ聴こえてきそうな気がする、好きな作品です。
きゅうぴー 12/19 16:32	安心して読める文章ですね。こんな大人が少なくなりましたね。
貧保 耐三 12/23 19:1	昭和を感じる話に、どこか安心感を抱きました。 エンジニア不足の今、ヤブさんのような存在は本当に神様のようなんでしょうね。
Eisen 12/25 10:21	レベルが高いな、というのが第一声。 文章力もさることながら、全てを書き出すことなく読者の想像に任せる手法がうまく効いています。ヤブさんオザワさんのいぶし銀な魅力も素敵。 長い台詞は途中で改行してあげるような、さりげない見た目への気配りも嫌らしいです（もちろん良い意味で）。
輝 12/26 18:29	工場の音・空気っていいですよね。わけもなく胸があつくなります。 プロ同士の友情・互いの尊敬の念がしかと伝わってきました！
活 12/27 1:35	よくまとまっていると思うのですけど、 こういう「共感」を呼ばない文章は たいがいコメントが少なくて、評価もされないんじゃないかな。 まあ、それはそれ。ここはここ。
イッパイアッテナ 12/28 13:39	やべ、かっこよすぎ。 つーか、いいわぁ、これ。自分もこういう職人さんになりたい。 とくに"神の耳"っていうのがGOOD JOB!? 実際に工作機械を扱っているヤブさんではなく、事務所で音を聞いているだけだったオザワさんが、"神の耳"をもつという設定。そこに心底惚れました。 というか、ほんといい会社です。自分の仕事をしながらも、常に作業場のことに意識を裂き、また、毎日できあがるものを毎日ちゃんと自分の目で確認しているからこそ、"神の耳"ができるわけで、こんな上司の下で自分も働いてみたいです。
ゼットン 12/28 16:12	なんだがほのぼのしますね。何度も読みたくなります。
みつきんぐ 12/30 0:42	ピチョットさんの「大人の物語」という表現がぴったりな、かっこいい作品ですね！ こういう渋さは、やはり年齢を重ねないと出ませんよね…素敵です。

イシルドゥア 12/30 14:51	いいなぁ。ずるいんじゃねえか、なんて言うあたりがものすごく好きです。辞めたとはいえ職人気質。いいなぁ。 　小ぢんまりとした工場だからこそこんな風なやりとりが出来るのかもしれませんね。こんなアットホームな会社もいいなぁ。 　何度も書いてしまったけど、溜息が出てしまうようにしみじみと、この作品いいなぁ。
橘 12/30 21:53	石川台３号館の統合創造工房には神保サンという職人さんがいらっしゃいます。 旋盤などでの難しい作業でも華麗にこなす。 「神の手」と言っていいほどの職人さんです。 今年度で最後なのが寂しいですが… 完成度が非常に高い文章ですね(・・*) 文章構成・ストーリー・オチの付け方も非常に上手いです。 「額をつき合わせて」「猫背気味に」などの言葉の使い方も見事です。
イッパイアッテナ 12/31 18:3	＞橘さん 僕も読んでいて、神保さんのことを思い浮かべました。 神保さんを知っていらっしゃるんですかぁ。なんか嬉しいです。 ところで、今年で定年退職なさるそうですが、来年以降も非常勤という形でまた来て頂けるそうですよ。
ほろほろ 1/3 20:13	うう～～ん、ムニャムニャムニャっ！ うまいんだけど、いい話なんだけど、 とっても好きなんだけど、 セリフの精度が甘い！ 小粋な言葉をつなげすぎです！ 特に、最後の一文がうまくない！ 『ずるいのはお前の方だ。』は最後から削除したほうが良いと思いますよ。
mu 1/4 0:5	いいですね。日本を支える町工場の神たち。 江戸っ子のべらんめえ口調が雰囲気をそそります。 でも、名前はカタカナじゃないほうがよかったかも、 どうしてもそこでひっかかって入り込めなかった。 オザワじゃなくて、例えば下の名前でよぶ方が、 二人の歴史が見えてくるのではないかと思いました。 素敵な文章だけに、工場の描写、(そもそも何工場なんだ?）とか オザワさんと薮さんのキャラがかぶっていて、台詞にも個性が出ていないところ、 など、色々なところが気になってしまいました。 でも好きです、自分には書けない文章なので。
茜 1/4 0:15	あたしの好みかもしれないのですが、一点だけ。 「当初から工場の経営は安定した。」ってさらっと書いてあるのに引っかかりました。 経営は安定するに越したことはないのですが、なんかこうもーちょっと、初めてのことに試行錯誤しながら模索していく姿みたいなのがほしかったなー、と思いました。 あとは文句はありません。 「困ったときの〇〇」って言われるような人間になりたいです。
King　Power 1/4 1:46	情景を思い浮かべざるを得ない作品だと思いました。 「音」でわかるまでにたどってきた人生が想像されます。
イッパイアッテナ 1/6 18:29	建設現場の所長がモデルなんですか。 こういう方がいる職場って厳しそうだけど、ぜひ努めてみたいなぁっと思います。 ＞コンサルやデベロッパーばかりではなく、建設業・製造業を見直しましょう！！ ですよねぇ、っと納得。まぁ、いる学科がどちらかというとそっちもちゃんと重視するからなのでしょうが。
活 1/7 10:12	イッパイアッテナさん： 反応ありがとうございます。 〉こういう方がいる職場って厳しそうだけど、ぜひ努めてみたいなぁっと思います。 そのように、心から思えるうちに接する機会を持つことが幸運なんです。体を壊したり、心を毀したりする職員が続出してました。 着いていける体力があるうちに、先達には全力で追随するのが良いと思います。 6類の学生が最近ゼネコン・メーカーを避ける傾向があるそうなので、ついつい、一言、でした。

活 1/7 10:24	イッパイアッテナさん： 反応ありがとうございます。 〉こういう方がいる職場って厳しそうだけど、ぜひ努めてみたいなぁっと思います。 そのように、心から思えるうちに接する機会を持つことが幸運なんです。体を壊したり、心を毀したりする職員が続出してました。 着いていける体力があるうちに、先達には全力で追随するのが良いと思います。 6類の学生が最近ゼネコン・メーカーを避ける傾向があるそうなので、ついつい、一言、でした。

ＴＯＰへ

バイブ

合計ポイント：17 Point
作者：ロココ
作者コメントを読む

あ！！鳴った！！

・・・なんだ　違った。

電車に乗っていると、携帯のバイブと電車の振動が混じる。
振動もそうだけれど、携帯が震えている音に聞こえるのだ。

電話、こないかな。
メール、こないかな。

そんな風に思っているから余計に。
自分から連絡すればいい、ただそれだけのことなのに。

自分から連絡をする勇気はない。
そんなに積極的じゃない。
それに、なにか特別に話したいことがあるわけじゃない。
きっかけを作り上げるなんて得意じゃない。

けど、今、なんだか話したい。

自分の心臓の音ってあんまり聞いたことないけれど、今だけは聞こえる。
バクバクしてる。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント

わがし 12/17 14:19	いやーわかります、すごくわかる。 日常の何気ないこと、例えば、「今日上司の機嫌悪かったんだ」とかっていうそういうことを、「その人」に伝えたいんですよね。 シェア（共有）したいんですよね。 これは本当によくわかりますよ！
SAWAA 12/17 14:23	電車の振動をついつい携帯のバイブと勘違いしてしまう気持ち、すごい分かります。 誰かからの返事を待っているときなど特に。 最後に心臓の音にかけたのも良かったと思います。
みつきんぐ 12/17 16:40	すごくよく分かります！！ ああ！切ない！！ 自分から連絡すればいいのに、できないんですよね… メールだと思ったら、メルマガだったりすると更に切ない…
インギリー 12/17 21:24	ごめんなさい。 私は携帯電話を持っていないので、わかりません。
鳥 12/17 21:37	気持ちはよくわかります。 来ないかな…来ないかな…って思ってるぐらいなら自分から連絡しちゃえよ、 と自分にツッコミ入れてみたりw ちなみに、この文章の趣旨から少し外れますが、ずいぶん前にこんな記事を見つけました。 http://gigazine.net/index.php?/news/comments/20070614_mobile_phone_vibration/
kirie 12/17 23:0	この文章を読んだ直後、思わず「これ私じゃんww」と言ってしまいました。毎週受信するauのメルマガには本当にイラっときます。まあ、結局放置してしまっているんですが。
Eisen 12/20 13:26	ちょっとだけ。〜聞こえるのだ、の、「のだ」が浮いてしまっていると思います。 こないかな。 得意じゃない。 バクバクしてる。 そんな素朴な言葉たちのなかにあって、「のだ」はちょっとしかつめ顔ですから。 短い文章にあってこそ、こういう細かな違いが大きな意味を持ってくると思います。すこし気を使ってみるともっと素敵になるのではないでしょうか。 内容については他の方もおっしゃっている通り、 「わかります！」
茜 12/22 16:11	わかる、んですが、何か物足りない。 あたしはこういう話、もっとお話の中に入り込んで読みたいと思ったのですが、なんだかこのお話は骨組みだけで、浸るべき世界がないように感じたんです。 なんというか、物語にはまだなれていない、という感じ。 たとえば、場面を特定する。 電車の中という描写は出てきたけれど、話全体を見たときに、舞台装置としての電車ってあんまり生きてないと思うんです。それをちゃんと舞台として使ってやるとか。 最後にいきなり心臓の音が出てきたのも、あたしには唐突に感じましたし。 ここにもなにか、ワンクッションあるといいんじゃないでしょうか？ こういうお話好きです。とてもいい原石なんじゃないかと。
ノエ 12/23 15:56	気持ちが素直に表現されていますねぇ。。
コーサク 12/25 3:45	とても共感できますね。自分のタテマエとホンネ、この隙間を埋める勇気は大したことなくても、否大したことないから余計にすんなり出せないものですね。
紫雲 12/27 13:8	私もあんまりにもバイブを誤認するので、最近では手に持ったままにすることが多くなりました。
バートルビー 12/27 18:0	「どうしてるかなと思って」とか「ちょっとしゃべりたいなと思って」とかいって電話しちゃえばいいのに！と思うのは恋心が分かっていないんでしょうか？

やむ 12/28 14:1	短い文章だけど、すごい気持ちがわかる内容でした。 携帯電話のおかげでいつでも人と連絡をとることはできるようにはなったのだけど、結局きっかけとかないと話せないとか考えてなかなか連絡できなかったりするんですよね。その人間臭さがよく伝わりました。
あゆむ 12/28 16:43	自分から積極的な行動にでてしまうと何かが壊れてしまうのじゃないかと思い、気になってもなかなか自分から相手に連絡しにくいもの。そっけない返事が返ってきたりしたら、連絡しなきゃよかったと思うかもしれない。
paco 12/28 18:9	就職活動期間中はバイブ音に敏感になりそうです。 あれもある種の恋愛模様(企業と学生の)のような気がします。
3匹ヤギの 12/29 2:17	タイトルに惹かれ、よからぬ妄想をして読んでしまいました。
橘 12/30 12:25	そういう表現は一言も出てないんですけど、 きっとこれ、恋愛の話ですよね？(^ ^*) 作者がたぶん男性だとすると、 ソワソワして待つのは異性からのメールなのが普通。 同性に対するメールで「積極的」というのも変ですしね。 で、最後は「心臓」が「バクバク」と(^ ^*) そこまで考えて作っているとしたら、 ちょっと気がつきにくいですけど上手いですよね。
イッパイアッテナ 12/30 17:53	うわぁ、こいつ、いらいらするーー(受け身の姿勢は苦手) .....あれ、ここは共感系のコメントが多いぞ、すぐに立ち去らねば。（でも、一言だけ） >電車に乗っていると、携帯のバイブと電車の振動が混じる。 >けど、今、なんだか話したい。 とりあえず、電車の中なんで、目当ての人からだったとしても、我慢してくださいね。
でもどり 12/30 22:32	自分は「好きな相手から」をイメージして読みました。 最近こういう気持ちを味わっていないためか、 ほほえましく感じました。 気持ちがいっぱい詰まっていて、好きな作品です。
アボガド 12/31 3:33	わかります！！でもなんか最近は自分から連絡すりゃいいじゃんてなっちゃってます。
bagi 1/1 12:25	よく分かります。電車でよく他人がそのような仕草をしているのを見かけますね。 私は寂しかったら携帯なんて持たなきゃいいのにってよく思いますけど今となってはないともっと寂しくなりそうです。かなり携帯依存症ですかね。
daikonsalada 1/2 17:31	すごくよくわかります！ 人生はそういうもんですね。大切な思い出になると思います。 頑張りましょう！
tkm 1/2 22:12	すごく共感しやすい話でした。最後の文章の感じだと描きたかった心情はあまり日常的な感覚とも違うのでしょうが、メール受信のバイブ音を無意識に待っている自分は日常的にいるので「音」というお題にこのネタを思い付かなかった自分が悔しい！と思わされる文章でした。
Bloomoon 1/4 0:54	現代病の１つとして、鳴ってもない携帯電話の着メロが聞こえる……というのがありましたけど、バイブだったら、誰でもありそうな経験ですよね。 それを心臓の音と重ねるところが、作者さんのスパイスだなぁと思いました。
クリリン 1/4 1:14	勘違いして、携帯を見てしまった自分に苦笑することはよくあるので思わず苦笑してしまいました。 そういう時、見てしまった自分に後悔し、次に見るときのスパンを無理に長くしてしまう時にまた下らない駆け引きを自分に課してしまったと感じるときだと考えさせられました。

ＴＯＰへ

俺の魂の音を聞けえっ！！

合計ポイント：17 Point
作者：　unknown
作者コメントを読む

バタンという音とともに自分の部屋のドアを閉める。これでここは俺だけの空間だ。誰にも邪魔はさせない。
おもむろにお気にのCDをコンポに放り込み、ヘッドフォンを耳につける。ＯＫ、準備は整った。
さぁ…プレイスタートだ…ヘッドフォンから音が直に耳にっ！来るっ！！来たぁああっ！

まずはイントロのギターだ！！イントロからエンジン全開でうねるギターで俺も一気にトップギアだぜ！！
そこにドラムも参戦だ！！その熱いビートが心の臓にドゥンドゥンと響くぜ！！
おっとベースも忘れちゃいないぜ？！この曲の隠れた主役はお前だって分かってんだ！！
そして満を持してヴォーカルの登場だ！！お前の魂込めたその歌声ぇ！！俺の鼓膜に直で届けてくれぇぇ！！
しゃぁあああぁあぁぁアガってきたぜえええぇぇぇえええぇえ！！！体がうずくぅぅう！！
どうやら奴らが俺に降りてきたようだぜぇぇえええぇ！！しゃあぁいくぞぉぉおおぉ！！！
ギターは憑かれたように狂おしいプレイを見せるんだ！！
ただ本能のままに暴れろ！！頭を振れ！！その手のギターと1つになって荒々しい音をぶちまけろ！！
ドラムはパワーが自慢の熱血漢だ！！
そのパワーで叩くビートはこの曲全体を支える柱だ！！俺の体全体にぶっとい音を轟かせてくれ！！
ベースは見た目クールでニヒルな男。
でもその芯には誰にも負けない熱い炎が燃えてんだ！！鋭く響く重低音で俺を貫いてくれ！！
ヴォーカルは全身の力をその声にこめるんだ！！
本当に人の心に響く歌声は、歌姫とかいう連中の高く澄んだ美しい声なんかじゃねぇ！！
喉の奥から振り絞って、ダミ声になった叫びなんだぁっ！！
そんでもって来るぜぇぇ来るぜぇええ！！サビが来るぜえええ来たぁぁぁああぁっ！！
ギター、ドラム、ベース、それぞれの音が折り重なった上を、ヴォーカルの全力シャウトが走り抜けるぅぅうっ！！
マジでこのサビはシビれるぜぇえええぇぇえぇっ！！！まさに全身で音を感じてるんだ俺はぁぁああぁああっ！！
サビのラストは雄叫びだぁぁあっ！！うぅおおおおぉぉぉぉぉぉおおぉぉおおおおおおっ！！！！
ふぅっ、とりあえず最初のサビは終わったが、もちろん気は抜けねぇ！
こっから次のサビに向かってギターソロが来るんだああぁ！！
ここのギターはマジですげぇぜ！！こんな狂ったコードは奴しか弾けねぇんだっ！！
この世界で、宇宙で、たった１箇所ここでしか聞けない狂気のギターを聞かせてくれぇぇえええぇっ！！

「…あんた、何してんの？」
あぁ？何してるってそりゃぁ今はギターソロなんだから、ギター演じてるに決まってんだろっ…って、へ…？

気がつくと、ドアの所にはにやけた母さんと弟が。

あれ、もしかして…見られたぁ？！えぇ～そんなぁ！
部屋に入る時はノックしてって言ったのに…って
もしかしてノックが聞こえなかったのかなぁ…。いつもはドアの開く音でもなんとか止められるのに…。
ああ…母さんが爆笑している。
それで妹が出てきて「何？何？」とか言っているよ。
弟はにやにやしっぱなしだし…うわぁ…ど、どうしよう……うわーんどうしようー！！

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 12/17 14:22	いやー、面白いっ！　母さん、人の部屋入るなよーっ！
かちかち 12/18 15:59	ほんと、面白い。イチ押し。コメント不要。
茜 12/20 11:46	うわーんどうしようー！！勢いに乗り損ねたー！（←読み終わった瞬間の感想） いえあの、とりあえずいい訳させていただくと、これ、あたしから見てちょうど１番目にあったんですね？で、真っ先にこれ読んだんですね？で、４行目でいきなり暴走されたんですね？ ・・・で、まあ、思わず暴走部分読み飛ばしそうになったり・・・ この暴走部分って、何かネタとか仕込まれているんでしょうか？ ちょっとあたしにはただの暴走にしか思えなかったのですが。 なんかこうもうちょっとひねった暴走の仕方というか、明らかにおかしな演奏をしてみるとか（脈絡なく三味線が参戦とか）すると、面白かったんじゃないかな、と。 導入が短すぎるのは、ちょっと中に入っていきにくかったです。 冒頭３行に改行を入れるだけでも、変わってくるのではないでしょうか？
輝 12/21 18:54	このハイテンション、楽しいです。 「夜のピクニック」のロックンローラー青年をキャスティングして映像化してました。 「…あんた、何してんの？」で、オチちゃってる気がしますので、 そのあとがやや間延びした印象？？
鞦韆 12/22 10:37	彼の魂の叫びが、『音』として聞こえてきそうです。
めふめと２世 12/22 16:11	モトネタはあれ？それとも偶然の一致？ あっちは完全にシモですし、シモ抜きに上手く昇華できてるな～と思います。
シマエナガ 12/25 10:34	自分も似たような経験（もちろんこんなに激しくはありませんでしたが）があるので、妙に共感してしまいました。 　終わりの部分は確かに少し長いようにも思いますが、恥ずかしさが募っていく姿が目に見えるようで、これはこれで楽しく読みました。
Eisen 12/25 23:59	今ひとつ突き抜けるものがないのです。 テンションがぐんぐん上がるのは良いのですが、途中で登り止まった上に息切れしてしまっているのです。 こういう類の作品ならば、いかに自分を捨てきるかがポイントだと思います。自分を捨て去ってこそ、自分にしか歌えない歌が生まれてくる。 まぁ要は、録音してアップして下さいってことです。 （たぶん違う。）
紫雲 12/26 18:56	人が入ってくる以外にも、頭を動かしすぎてヘッドフォンが抜けてしまうのも萎えますよね。 それはさておき難聴には気をつけましょう。

みつきんぐ 12/27 13:18	うわ〜、恥ずかしいですね〜；； それにしても、上手くまとめてますね！
SAWAA 12/27 15:41	そのハイテンションにつられていっきにに読んでしまいました、笑。 最後のオチはもう少し簡潔にしたらより良かったかなーとも思います。
イッパイアッテナ 12/28 13:54	うーーん、今一つ話に乗れなかった。 というか、作品の序盤の濃さから、見られた恥ずかしい落ちになるんだろうなぁっと。 でも、母さんと弟がいいキャラしているから、面白いとは思えたんだ。 でもでも、心の叫びは聞こえなかったんだ。 まぁ要は、録音してアップして下さ(ry
やむ 12/28 14:19	音楽にのめりこんでる姿、いいですね。 後半の「・・あんた何してんの？」以降をもっと簡潔にまとめて落とせたらすっきり読めて良いと思います。
がらがらどん 12/29 13:12	あるある。音楽聞いてたらドラムになりきってたこと。 エアギターの練習してたんだよ、って家族に言ったらいいよ。
レロニラ 12/29 17:29	読み手がついていけない感じがありますが、それはワザと単独でつっぱしっている感じにしたかったのだと思います。 しかし暴走部分が音をテーマにしているのに対し、皆さんが気に入っているオチは全く音とは関係ないところでついちゃっているのが勿体ないという気もしました。
イシルドゥア 12/30 17:23	なんというか・・・お疲れっ！（笑 　暴走部分、それなりに熱さは伝わってきたんですけど、それって始めの一行を読んで想定できる程度の熱さなんですよね。想定を超えるほど暴走してほしかったなあ・・・たとえば、もはや言葉が言葉にならないとか。 　あと、落ちも「…あんた、何してんの？」の一行だけで、そうでなくてももう一行締めの一文書く程度が○。とはいえ、これも予想しやすい落ちなんですよね（といいつつ、なぜか暴走部分読みつつ考えてた落ちは、終わった瞬間冷静に違うことをしだすなんてことだったのですが） 　テンションのおかげですっと読めましたが、ちょっとものたりないと感じてしまう作品でした。 　ところで、僕も、紫雲さんの言うように、ヘッドホン抜けちゃったことはありますが・・・あれは、本当に焦りますね。ぴきっと固まってなんていられないくらい。
はつね 12/30 21:36	勢いは分かるのですが、エクスクラメーションマークが多いことと、小文字が多いことで少々読みにくくなってしまっていると思いました。 気持ちはよく分かるのですが。
でもどり 12/30 23:37	中学生くらいのとき、似たような現場に遭遇しました。 兄がノリノリでした。 動揺具合がなんとも笑えます。
星イッテツ 12/31 2:54	青春っていいですね。
アボガド 12/31 3:22	中盤の狂った感じと落ちのギャップが面白いです。
橘 12/31 22:30	この前スタバに行ったら、頭振ってる受験生がいました。 どうやら彼は勉強前には必ずその曲を聴いてから始めるようです。 ロックですね、これこそロックです(笑) なんですけど、ロックがちょっと長くて、ぶっどばれて置いてかれました(^ ^;) うん、あと最後の段落はいらないかもです(・・;) かえってその方が読後にちょっと考えさせられていいかもです。
go19 1/2 18:27	なるほど。この音は「魂の音」に違いないですね。この音は聞くほうも、耳ではなく魂で聞く必要がありそうです。 「音」というテーマに対し、実際に音を聞いているのは本人だけで、母, 妹, 弟 は何も聞こえていないことが、とても面白いと感じました。 最近は、「エアギター」の国際大会も開かれるそうですから、「うわーん」なんて思わずに、演奏を続けても良かったかも。
けろた 1/3 0:45	あのー、あのー、これってロックというようりは「ヘビメタ」でしょうか？私もこんなことありました。今じゃできないけど。オチの部分がおもしろい。

ほろほろ 1/3 19:59	わはははは！ 太字をうざったいほど効果的に使っていただいて、 ありがとうございました。 中学生に戻った気持ちがしました！
King　Power 1/4 1:58	なんか、これを書いている時の作者さんを思い浮かべて笑いながら読みました。
いそしぎ 1/4 3:21	とても面白かったです。 文章そのものが、何か力強い音を発しているように感じました。
鳥 1/4 3:23	実際に楽器を演奏する人間からすると、 「エアギターとか言って弾き真似なんかしてないで実際に楽器持って演奏すれば?その方がずっとかっこいいと思うよ?」 って言いたくなります。 すみません、ネガティブな意見でw

ＴＯＰへ

夙川

合計ポイント：16 Point
作者：シマエナガ
作者コメントを読む

何となく目覚めていた。薄ぼんやりとした気分の中で、家の外で何かがぱっぱっと光るのが見えた。蛍光灯の点滅のような光だ。
おや？と思う間もなく、何とも形容のできない奇妙な音が聞こえてきた。物がきしむような、石と石とがこすれ合うような…　次の瞬間、ベッドから体が浮き上がるような衝撃が襲ってきた。
１９９５年１月１７日、５時４６分である。

夙川のまちは滅茶苦茶になっていた。細雪の‘こいさん’が住んでいた風格ある邸宅街は無惨な瓦礫の山と化し、その下には人が埋まっていた。
阪急の線路には、崖の上に建っていたビルが倒れかかっていた。道路は地割れを起こし、１メートルほども盛り上がっているところもあった。
何もできなかった。腰が抜けたような状態で、ただ呆然と歩いた。

音が続いていた。今度はズズーン、ズズーンという地鳴りだ。余震なのだろうが、回数を数えることなどできない。半日の間、大地のうめき声は途切れることなく続いた。

電気が１時間ほどで復旧し、テレビをつけた。すさまじい光景が次々と映し出される。横倒しになった高速道路、５、６階の柱がへし折れて傾くビル、つぶれた家、瓦礫に埋まる道…　それは全て自分のすぐそばで起こっていることなのだ。
信じられなかった。自分がそんな渦中にいることがどうしても実感できなかった。なじみの建物や場所が、それも変わり果てた姿で映るたび、悪い夢を見ているとしか思えなかった。
その中で、音は容赦なく響き続けた。

水やガスの止まった夙川を離れ、京都のホテルから大阪・神戸に通った。復旧・復興に関わる仕事で県庁や市役所、被災現場を行き来し、かなり忙しかった。
しかし、音は消えなかった。いつも耳の底では地鳴りが響いていた。ホテルで寝ていても、余震があると一瞬のうちに‘あの時’の不気味な音と衝撃が蘇った。
眠れなかった。１カ月余のホテル暮らしで、体重は８キロ減った。

人間と関係なく時間は流れ、まちは少しずつ落ち着きを取り戻していく。夙川に戻って半年が経ち、あれほど耳にこびりついていた音も薄れていった。
ある秋の夜、かなり大きな揺れがあった。目覚めた瞬間、‘あの時’になった。ガリガリッと音が響き、奇妙な光が見えた…
パニックから我に返った後も、頭の中では地鳴りが続き、一睡もできなかった。

１年が経ち、２年が経ち、もう音は戻って来なくなった。でも涙は出た。震災の特集番組を見るたび、あの日の光景を見、被災した人々の話を聞き、涙が出た。自分でもどうしようもないほど出た。理由はよく分から

なかった。
　何年目からか、意識してその種の番組を避けるようになった。

　夙川は立派なお屋敷町に戻っている。
　でも、丘の上のコンクリート打ち放しの家はとんがり屋根のすてきな洋館だったのだ、プレハブの豪邸は黒瓦の堂々たる木造家屋だったのだ、あの朝、つぶれたその家の前に、頭を赤く染めたおばあさんが寝かされていたのだ…
　そして、まちには絶え間のない地鳴りが響いていたのだ。

　もう一度、どこかであの音を聞くことはあるのだろうか。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
kunipi 12/17 19:32	平成7年という年は、いろいろな意味で 今までの価値観が崩壊しましたよね。 阪神大震災しかり。地下鉄サリン事件しかり。 テレビの中の出来事が、同じこの日本という国の中で 起こっていることなのか。 たんたんとした記述が あのときのことを鮮明に思い出します。
スマイリー 12/21 15:57	「夙川」というタイトルに引かれて読みました。私の実家は宝塚で、小さいころよく遊びに行ったおじの家は神戸の御影です。震災直後に長田の街を歩き、未だに言葉にならない思いがあります。建築を仕事にしていた者として、技術への過信を思いました。震災に直接会った方は、今でも地鳴りの音が聞こえるのですね。愛する人、愛する町を失って、決して忘れてはならない音です。
きゅうぴー 12/21 16:15	音を聞くと、そのときのことが思い出されるという経験はよくありますが、往々にして思い出したい想い出、の場合が多いような気がします。でもこんな音もあったんですね。忘れてはならない音には違いありませんが、忘れたい音でもあるような気がします。
インギリー 12/21 17:39	私も経験した、あの地震のことがよみがえる文章です。 思い出したくないでしょうが、細かいところまでよく思い出して書かれています。 ただ、一箇所 >いつも耳の底では地鳴りが響いていた。 のところ、 「耳の底」じゃなくて「耳の奥」の方がいいんじゃないかしら。 それから、起承転結の結の部分が弱い気がします。 デッサンは良くできているのですが、そこから何を訴えたいのか、はっきりしません。
茜 12/23 19:35	あのころまだ小学生だったあたしの脳裏に、今でも強く焼き付けられているのは、上空からのニュース映像で、真っ暗な街に溶かした鉄をぽつぽつこぼしたみたいに火があがっている光景です。 消えなかったらどうしよう。早く消えて、と、ニュースを見ながらおびえていたことだけ、覚えています。 あの地震は、日本中の人に、何かを残していったのですね。 非常に細かい話ですが、「人間と関係なく」というよりは、「私の心と関係なく」とか、そんな感じでしょうか？まちが落ち着きを取り戻していることは、確実に人間と関係してますし。 それから、どこかに、復興していく街の希望のきざしみたいなものとかが匂わせてみたりするのも、よかったんじゃないかな、と思います。

橘 12/23 22:1	２年前の新潟の水害でも同じようなことがあって、 未だに雨が降ってくると落着きを無くしてしまうPTSDを抱えた子供達がいるようです。 心的外傷は、時間だけで解決出来ないのかもしれませんね。 阪神大震災の被害の様子が、読み手によく伝わってきます。 テーマの「音」が徐々に現われてきて、読後に印象を残しています。
ほろほろ 12/28 23:19	いい題材ですし、とっても沁みるお話なのですけれど、 最後、ちょっと書き急いじゃいましたね。 実に惜しいっ!! どこか別の場所でもかまわないですから、 同じ題材で、もっとたっぷりとお話を聞かせてください。 いい話なだけに、荒削りなのがもったいない！
３匹ヤギの 12/29 2:21	このように経験した者しか分からない感覚は、ぜひ後世に伝えていって欲しいものですな。
シュトルムティガー 12/30 21:52	阪神・淡路大震災を思い出しました。 私も大阪出身で、当時は仕事の関係で高知に住んでいましたが、朝一番のニュースで震災を知り、実家に電話しました。 幸いにも、実家には被害がありませんでした。 その後、淡路島で被災地の復興に仕事で携わったため、強烈な印象が残っています。 当事者ならではの実体験から来るいい作品だと思いました。
Begonian 1/1 0:22	うぷっ、タイトルが読めん……！ ま、それはそうと。 実は当時日本に居なかったので、人一倍この件についての知識が欠けてるんですよね……。 話を聞いてると、あまりに怖ろしくてコメントを躊躇ってしまいます。 作者さんの実体験なのでしょう、大事にしていただきたいと思います。
ピチョット 1/2 17:27	まさかという経験をすることの恐怖は想像に絶するものがあります。軽々しいコメントはできないという気持ちでよみました。地鳴りの音、実際にきいたことはありませんが、さぞ不気味なのだろうとおもいました。最後のでもから後ろの文章に～のだ、～のだ、～のだ、は少し違和感をおぼえました。
tkm 1/2 21:59	読み出しの辺りではフィクション系の物語かなと思ってしまいました。それほどまでにここで描かれている光景はすさまじい。それが伝わってくる文章でした。
けろた 1/3 0:35	私も「夙川」という題名にひかれました。地震の恐怖って確かに揺れが大きいはずなのに、私も中越地震のとき震源地近くで経験したとき、一晩中余震がおこったときの揺れよりは建物全体がガタガタしていた音の方により記憶が鮮明だったりします。二度と経験したくない「音」です。
mu 1/3 23:25	心に傷をつけた、おそろしい音。 体験した方でなければ描けない文章だと思います。 街の傷、人の傷、心の傷 時間が全てを癒してくれることを願って祈ります。
King　Power 1/4 1:1	音を感じる部分が本能に近いのだろうと思いました。 音で揺り動かされると言うか。
parakeet 1/4 1:28	うちはちょっと離れてたんで、 震度５弱で目は覚めてんけど、 被害はビンが一本倒れただけやった。 それでも、あの凄い振動と音は覚えている…。

ＴＯＰへ

オットのオト

合計ポイント：16 Point
作者：ピチョット
作者コメントを読む

今日もあの「音」だ
耳をふさぎたくなる

「ピチャピチャ」・「ブゥーン」
「ペチャペチャ」・「フゥーン」
「クチャクチャ」・「ウゥーン」

どうも年をとると無意識に意味不明な言葉を発するらしい。
さらにトトロ体型の夫は
風呂に入るときも「ハァ〜」にはじまり
いすに座るとき、物を飲み込むとき、動くたびに
常に意味のない「音」を発している。

特に夫が食事中に発する「音」
気になって仕方がない
それは汚い・気持ち悪い・行儀悪い
なんともがまんしがたい「音」

なんどか
「口を閉じて食べてよぉ」
「意味のない『音』やめてぇ」
といってはみたが、きょとんとして
一向に気にせず、余計「音」が、大きくなるような気がする。

ある日、たまりかねた私は
「ピチャピチャうるさぁ〜い！」
と怒鳴ってしまった。
すると彼は、

「君だって歯ぎしりひどいよ」と一言。
「えっ？・・・私が歯ぎしり？・・・・」
「そうだよ。もうずいぶん前からだよ。」
「我慢していたの？」
「別に、気にならないから。でも歯のために歯医者に行ったら？」

そうだ！私は

愛犬タロウのミルクをのむ「音」
「ペチャペチャ」「クゥーン」
だったら気にならない
夫は私の歯ぎしりの「音」が気にならないという

私は、「音」にいらいらしていたと思っていた
どうも、「オットのオト」にいらいらしていたようだ
単純に「音」に我慢ができないのではなくて
「オットのオト」に我慢ができない
坊主にくけりゃ袈裟までにくい・・・？

先日2度離婚している友人が最近3度目の離婚を考えていることを相談してきた。
「かみさんが、食べた後シーハー、爪楊枝を使っている『音』に幻滅だよ。
昔はかわいかったなぁ。だんだん我慢できなくなってきたよ。」
「でも次の奥さんが今度はシーハーしなくても歯ぎしりするかもしれないじゃない。」
というと
「ウ～ン～そうかぁ。歯ぎしりはいやだなぁ。
今思えば最初の奥さんのほうがまだ我慢できたのかもなぁ。」
ひどい!!
きっとこの友人は何度結婚しても次の妻の欠点に目がいくのだろう。

たかが「音」されど「音」
「オットのオト」を気にしないようにするにはどうしたらいいのか。
テレビの「音」を大きくしてみたらいいいかもしれない
いっそ、自分もクチャクチャしてみようか
ともかく、私は、寛容な夫に感謝して、「オットのオト」を我慢してみようと思っている。

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。
コメント登録

投稿者	コメント
活 12/17 12:19	ああ、なんだか、結論は「我慢する」ですか？ もっと愛のある結末を期待していた私は とてもがっかりしました。 まあ、それはこっちの勝手ということで。 最後まで読まされた勢いやよしですが、残念です。

インギリー 12/17 21:43	結婚は愛しあうのではなく 違いを認め合うことだと思います。 何から何まで自分と同じ人はいません。 考え方も性格も行動も、違うことが他人なのですから。
桜子 12/19 14:43	うーん確かに、このオトはなかなか強敵です。出さなくてもいい音をあえて出すということに対象人物が誰でも少なからず嫌悪感を抱いてしまいます。それまでも包み込んでしまう愛情・・・あるといいなと思います。
pooh 12/19 23:53	気持ちはよく伝わっています。 でもインギリーさんの観点も賛成しますが、結婚するのは、相手の長所だけではなく、短所も一緒に受け入れないといけないと思います。 なにかいい音と連想してみたら、以外に効果あるかもしれませんよ。
インギリー 12/21 9:8	＞私は、「音」にいらいらしていたと思っていた のところ、「いらいらしていると思っていた」の方がいいと思います。過去形が二つ重なるから。 それから、句読点がないところと、あるところは、どう違うんでしょうか。
茜 12/23 22:12	音が気になるのは、もしかしたら、音以外に文句がないからじゃないかしら？ 歯軋りにいらだつよりも、「歯医者に行ったら？」と心配してくれる、やさしい旦那さんなんだと思います。 まあ、我慢は我慢でいいんじゃないでしょうか。欠点まで好きになれなくたって、「音のことを差し引いても一緒にいたい」と思えるなら、それはそれで愛かと。 でも、たとえばpoohさんの言うような工夫とかをもっと考えてみると、ただ我慢するよりは気楽な感じがしていいんじゃないでしょうか。 じっと我慢でも続かないですしね。
シマエナガ 12/25 10:19	夫婦の生活の一こまがうまく捕らえられているように思いました。わたくしにも似たような経験はありますから。 　いろいろ理屈はあると思いますが、結局夫婦なんてこんなもので、長いこと別の家で育ち、今度は長く一つの家で暮らせば、いろいろ言いたいことも出てくると言うことでしょう。 　極端に言えば、親や兄弟でも同じこと。割り切って考えれば、夫婦にだけは離婚という選択肢があると言うことではないでしょうか。
Azalea 12/27 3:29	我慢できるってところに愛があるのではないかなあと 好意的に解釈してみます。 互いに不快にならないように、言うところは言える関係であれば 一番いいのかななんて、ちょっと思ってみました
SAWAA 12/27 15:45	共感できる話題だったのですが、終わり方があと一歩だったと思います。 私も「音」、特に食事中の「音」には敏感になってしまいます。 トピックの選択は良かったと思います。
バートルビー 12/27 20:28	我慢といっちゃうとしょーもない感じですが、 「まあ、しゃーないね」と思えるのが愛であると思います。 同じ行為でもこの人なら許せるけどあの人なら許せないみたいな。 いやでも、暖かいパートナーですね。
354e14thave 12/28 0:32	どっちかっていうと、年をとるにつれて変な音を多く発するようになる気がするのですが、いかがでしょうか？ 私は他人の口で息する音とか妙に気になるのですが、この間、いつも寝てる時に苦しそうに息するよね、と言われて妙な気分です。
鞦韆 12/29 12:0	夫なら好きで一緒になったんだから、我慢するでもいい気はするんです。 でも、私、同じ問題を父に抱えているんです…。父が食事中にピチャピチャクチャクチャうるさくて…。 すごい不快な音なんですよね、あれ。我慢するなんて私には無理です…。辛い道でしょうが、頑張ってくださいね！
がらがらどん 12/29 13:31	相手の悪いところはよく見えるけど、自分の悪いところは見えにくいですね。この文を読んでそう思いました。 ただ、本当に優しい夫であれば、口を閉じて食べるように努力するんじゃないかなぁとも思いますが。

けっちゃん 12/30 16:6	ご主人がお風呂に入る一言が聞こえる距離にいられる限り、お二人の仲は続けられると思います。 意外とラブラブなんじゃないですか？？
あゆむ 12/31 0:7	愛とは何ぞや。
星イッテツ 12/31 2:58	生理的にむかつくことを認め合うのは大変だと思います。
イッパイアッテナ 12/31 17:26	なんというか、いい奥さんだなぁって思います。 ＞「君だって歯ぎしりひどいよ」と一言。 ＞「別に、気にならないから。でも歯のために歯医者に行ったら？」 うまくごまかされている気がします(汗 食事のくちゃくちゃにしろ歯ぎしりにしろ、どっちも不快な音で治したほうがいい音なんだから、相殺で互いに我慢しようという問題じゃない気がします。(そもそも、気になる音に対して気にならない音をもってくるのは.....)
橘 1/1 13:53	自分は「ま、いっか」や「ま、しゃーないさね」って声に出してます(・・*) 心の中で「我慢、我慢」とつぶやくよりも、何となく気が楽になります。 それを繰り返してると、ホントに気にしなくなったりもします。 あと、最後の空白が気になりました。 実は「でも、我慢できないだろうな」って意味でしょうか？(^ ^;)
Eisen 1/2 18:30	私も、最後の空白に意味を感じてしまいます。ひょっとしたら単なるミスなのかも知れませんが、ちょっと意味深ですよね。 無理やり納得しようとして、でもうまくいかない。 そんな風を表しているのだと受け取りました。
ほろほろ 1/3 2:23	実感のこもった話を、どうもありがとうございました。 沁みますわ〜。 音が気になるのは、他にもっと気になる点があるからなんだと 僕は思ってしまいます・・・・・・。 お互いがちぐはぐな思いで、 それでも仲良くやる、というのが『男女の間(あわい)』ではないかと。
ゼットン 1/3 22:33	夫が歯ぎしり気にならないと言った所がなんだかよかった。おっとりとした良い旦那さんの感じがでていて、自分もそんな旦那になりたいなと思いました。 ただ、2度離婚している友人の話を出した意図が分かりませんでした。 急にこの話に飛んで、それから何か話題を発展させるわけでもなく・・・。 ここはすこし浮いてる感が否めないかも。
Bloomoon 1/4 0:33	＞トトロ体型の夫 に、愛を感じます 私も、「オットのオト」をこらえられるような女房になれたらなぁ……なんてw
鳥 1/4 1:37	家族の気になる欠点ってありますよね。 でも、それを受け入れるのも家族なんじゃないかなぁ、と思います。 私の場合は家族が親だけなので結婚・離婚と言った「選ぶ」というプロセスはありませんが、 結婚するということは長所だけでなく短所も含めてまるごと愛をもって受け入れることなんじゃないかなぁ、と思ったり。 未婚の私がいう意見じゃないでしょうけどね。 ところで食べ方の汚いひとはいやですね。 噛むときにくちゃくちゃ音を立てるとか、食べ終わったときにお茶碗にご飯粒がたくさんついてるとか。
King　Power 1/4 1:53	さて、この議論に参加している人々のどれほどが愛を理解しているのでしょうね？？

ＴＯＰへ

空を見上げれば

合計ポイント：15 Point
作者：contax139
作者コメントを読む

そもそものはじまりは、私の気まぐれだった。その日の空の写真を残してみたいと思ったのだ。
ド素人の私は、とりあえず理科の教科書に載っているような、星が線に写るような写真をとってみたかった。

９月３０日　新月　晴れ
仲間と白銀平に着くと、９月と言っても標高が１５００Mを越すため、まだ日が沈まないのに、頬をさすような寒さだ。早々にスキーウェアで防寒を整え、私はいつでも滑ることができる、いや、撮影することができる姿になった。間違えて一緒に持ってきてしまったゴーグルを付けてふざけてみたりした。いつもよりはっちゃけていた。
とにかく、写真を撮るのが楽しみでしょうがなかった。
真夜中の撮影に備え、車中で３時間程の仮眠をとった後、何か腹ごしらえをしようと、おにぎりと、お湯を注いで、お味噌汁も食べた。準備は万端だ。
そろそろ、撮影をはじめようと、三脚を組み、慎重にフィルムをセット。
レリーズをつけ、最初の何枚かで、シャッターが切れることをチェック。
まずはオリオン座から、絞りを変えて何枚か撮影。撮影時間は２０分ほど。
そのため、遠くから、車がやってこないかドキドキしながら待つ。
短いようでとても長い時間。
撮影が終わるとホッとひと安心。
２３時を過ぎると、突然雲が出始めた。
しばらく、車中で待機。ツライ時間がはじまった。
寒さ、そして、眠さとの戦いが始まる。足の指先の感覚はもはやなかった。
２５時頃、空が晴れた、と起こされた。
見上げた空に「おお」と思わずため息がでた。
北極星がすごく眩しくみえた。

私はいよいよ本命の北の空をとることにした。
あの、北極星を中心に円弧が描かれる写真だ。
ファインダーを覗き三脚の雲台を固定する。
レリーズを握る手がこわばる。
空を見上げながら、どうか上手く撮れますように。
「ガッ。」シャッターが開く。

私は仰向けに寝転んだ。
（待つべし。待つべし。）

２０分ほど開き、レリーズを掴みシャッターを閉じる。

「シャッ。」

寒空の下、私のシャッター音だけが響く。
私はしばらくそのまま目を閉じて寝転んだ。
風邪の音や木々の揺れる音が聞こえる。
そして、フィルムに焼き付いたはずの星の軌跡を思い浮かべたら、笑顔になった。

その後も、空はずっと上機嫌だった。
私達は薄明をみた後に一眠りしてから、白銀平を後にした。

この時の軌跡は、今では白銀平のペンションの一室に飾られている。
「北天」（１９９７．９．３０）

私はと言えば、１０年経った今でも、またここにきて、寝転んでいたりする。
今度は、車だけでなく、隣で転がって暴れようとする我が子にも注意しながら。
三脚を蹴飛ばされては困る。
（待つべし。待つべし。）

「シャッ。」
私は目を閉じる。

ここでしか聞けない音を聞くために。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
ken 12/18 11:38	目の映像をしっかり耳の音に変えたあたりさすがです。
輝 12/21 18:51	待つべし。待つべし。　が耳に残っています。 青春の１ページ（？）のワクワク・ドキドキが伝わってきました。
イッパイアッテナ 12/23 15:47	うわぁ、なんかいいなぁ。 写真と天体観測いう音がないものを題材に、こうも奇麗に音を描きだすなんてすごいです。
Azalea 12/27 2:21	音を連想しないものなのに、音を感じさせるのは とてもすごいです。 ちょっと違いますけど、写真には音なんてないはずなのに、 音を感じる写真もありますよね。 これもちょうどそういう感じかなあと思いました。
あゆむ 12/28 16:45	その日に一緒に行った仲間というのが今の奥さんだったりしますか？ 星は恋人と見るもの。輝く世界に引き込まれ、その世界にあるのはわたしとあなたと星たちだけ。

Asagi 12/28 17:40	最初にシャッターを開く描写を持ってくると、よりドラマチックな構成になると思います。 シャッターを開く→その日までの回想→シャッターを閉じる→現在の描写、みたいな感じで。 天体写真のシャッターの長さを、読み手さんがより実感できるようになると思いますよ。 あゆむさんのおっしゃるように、その日のメンバーが奥さんっていうのも、いいですねー。 ・・・・じつは、そうだったりして。 星空の写真って、なんだか吸いこまれてしまいそうな力がありますね。 いいなー！天体写真！
がらがらどん 12/29 12:58	うまく撮れてますように。という思いが伝わってきます。 自分も星の写真を撮ってみたくなりました。
イシルドゥア 12/30 11:29	カメラのシャッター音って、普段特に意識することがない割には、思い浮かべようとするとなぜかすんなり思い浮かびますよね。そういう、普段気にしないけど共有できる音を持ってきた辺りからセンスを感じます。 最後の締め方もうまいと思いました。（待つべし。待つべし。）「シャッ。」のコンボが特に意味もなく病みつきです（笑 一つだけ気になったのが、文章の問題ではありませんが、眠さとの戦いをしていたのに、２０分も仰向けに寝ころんでよく寝なかったなあとか。きっと撮影のドキドキわくわくな緊張感とか、星がきれいだったとかなんでしょうが、こらえ性のない僕なら、十中八九寝ちゃってます（笑
sum1 12/30 22:25	短い、抑制された表現の列挙がまるで探検日誌のようで、写真撮影の忍耐と孤独感（仲間がいるはずなのに不思議と文中ではほとんど出てこないですね）、まわりの静寂といった雰囲気が伝わってきます。 他の文が淡々としているおかげで、「シャッ。」というシャッター音が引き立ちますね。 ところで「レリーズ」って、一般人なら誰でも知ってるものなのでしょうか？ カメラ趣味も常識も持ち合わせていない私には最初分かりませんでした・・・。
Begonian 12/31 21:59	レリーズという言葉を知っている方は少ないでしょうが、場面から想像できるんじゃないでしょうか。 カメラから伸びてるケーブルの先にボタンがあって、それでシャッターが切れるアレです。 いやぁ夜通しの天体観測の寒さは筆舌に尽し難いものがありますね。 この作品では秋ですが、冬にやった時なんかもうそれはそれはガクガクブルブル。足の指先はホントにヤバい。 そんな経験もあるからか、とても好きになれた作品でした。他の方とは、ちょっと角度が、ずれてそうですがね。
橘 1/1 14:35	…２０分。 （２０分／６０分×２４時間）×３６０°＝５° 少し短い気もしますが、そんな位なのかなと思いました(・・*) 撮影までの準備時間の様子が丁寧に描かれいて、 様子がとてもよく伝わってきます。 でも、きっと待っている間の２０分間が一番楽しいんでしょうね(^ ^*)
ピチョット 1/2 17:45	10年のときが流れても音を聞く作者の気持ちが 変わっていないことに素敵な青春を感じます。
ほろほろ 1/3 19:50	音との関連は少々薄いですが、 ワクワクが伝わる文章でした。 １点、理科の先生としてヤボな補足を。 10月上旬の２３時ごろで、 オリオン座は非常に低い所に半分しか見えません。 (http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/Planetarium/Planetarium.html) オリオン座は秋、明け方に南中するので、日が超えてから見たほうが良かったか と・・・・・・。 いえいえ、標高の高い所から見たらじゅうぶん全部見えたのかもしれませんが。

Bloomoon 1/4 0:59	自分も、寒空の下天体写真を撮ったことがあります。 短い時間でも、意外にきれいな線で写るんですよね、特に北の空は。 星空の話なのに、カメラのシャッター音でテーマに沿わすのはお見事です

ＴＯＰへ

幸せの音色

合計ポイント：14 Point
作者：るらら
作者コメントを読む

夜の八時過ぎ、誰かがアパートの階段を駆け上がる音がする。カンカンカンカン。

次に聞こえるのは、次第に僕の部屋に向かって近づいてくる、廊下を駆ける音。ぱたぱたぱた・・・。

そしてまもなく聞こえるゆっくりとした、ピーーンポーーン・・・。期待が確信に変わる。

ドアを開けると、その十数秒の音の主は少し息を切らせて、安心の表情で「ただいま」と言った。

そんな一連の音を、あの頃の僕はなにげなく毎日聞いていた。

疲れた顔も見せずに、音の主は帰ってきてすぐに夕食の準備にとりかかる。
僕は、隣の部屋でテレビを見ながら夕食が出来るのをゆうゆうと待っていた。

トントントントントン・・・。リズムのよい、まな板で何かを切る音。
切っているのは大根？ニンジン？それとも里芋？

しばらくして次に聞こえるのは、チチチチチ・・・、ボッッという、僕をわくわくさせる音。コンロに点火する音だ。まだちょっと時間かかりそうだな。

そして、十数分後に聞こえてくる、いよいよ食欲をそそる音。ぐつぐつぐつ・・・。
だんだん楽しみになってきて、我慢できずにキッチンへ行ってみると、土鍋の中で、野菜と肉、つみれ、豆腐が煮えている。やや、今日は寄せ鍋ですか。こんな冷える夜は鍋が一番！

忙しそうに白いごはんを盛り付けながら、音の主は最後にこういう。
「さ、できたよ〜。」

冬の夜にたびたび耳にしていたこれらの音。
あの頃の僕は、幸せだった。

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 12/17 15:1	あの頃僕は、幸せだった。と言いながらビール片手に何かつまんだりすると、もっとわびしさ倍増？　部屋汚かったりとか・・・。
活 12/17 21:27	うわ、最後の一文だけで持っていかれた。 おそろし・・・
インギリー 12/17 21:31	そうだね、幸せだったんだね。 幸せって、その時はあまり感じないのです。それが当たり前だと思うから。 それがなくなってから、何倍にも感じるんですね。 料理を作っている方は、その時から感じてほしいし、感謝の言葉の一つもほしいのですが…
かちかち 12/18 15:50	こんな幸せな思い出を持っているあなたは、今でも幸せなはず。だって、若い頃（たぶん）、こんな幸せな経験をできた人間はめったにいない。
みつきんぐ 12/19 10:53	幸せな思い出を幸せだと思えるのは、とても素敵なことだと思います。 何事も捉え方一つで随分変わりますから。 しかし、てっきりのろけ系の話かと思っていたら、最後の一文で・・・
輝 12/21 19:0	擬声語・擬態語がとっても心地いいリズムを刻んでますね。 すっと作品世界へ誘ってくれます。 最後は擬声語・擬態語も途切れ、「無音」の世界へと・・・ この悲しい幕切れ、潔くてかっこいいです。
鞦韆 12/22 10:44	私は最後の一文ではなく、五行目で既に。 途中までミスリードを誘うようでいて、その時点でミスリードの余地が奪われているように感じたのですが、上の方でのコメントを見る限りではそれほどでもなかったのでしょうか。 ともあれ、その行以降が幸せそうであればあるほど切なさが募り、最後の一行で再確認するように落とされる。計算しつくされた巧い構成であると感じます。
vista 12/23 23:44	今も幸せなのかが気になります（笑）
シマエナガ 12/25 10:38	最後の一文は重く響きますね。 　いろいろな音が出てきて、暖かい臨場感があると思います。子どもの頃に、あるいは成人した後にも、同じような経験をしている人は多いでしょうから、素直に共感できるような気がします。
バートルビー 12/25 19:41	一緒につくらないっすか？ 家にいた「僕」はテレビを観ているんですか？ 私はそんなことされたら怒るし、そんなことしたら怒られると思います。 心が狭いんでしょうかね。。。
紫雲 12/27 14:15	なんだかプロローグみたいですね 怖い怖い
紫雲 12/27 14:41	なんだかプロローグみたいですね 怖い怖い
やむ 12/28 14:50	音で思い出を語る、というのはいいですね。何か特定の場面とか状況ではなくて、誰でも共有できることって音であらわされるのかな、と思いました。 会話の内容とかより、案外こういう背景の音って記憶に残ってたりするんでしょうね

ほろほろ 12/28 22:27	こういう回想シーンは、 もっとも〜っと長く、しつこく書くことで リアリティが何倍も増すんですよねえ。 ・一見して、甘い生活の中にありそうなこと ・すぐには思いつかないけれど、良く考えればありそうなこと というように、「あるあるネタ」には深さの違いがあると思うんですけれど、 この作品はトピックが前者ばかりのように感じてしまいました。 もっとしつこく回想を書いていただくと、 「あの頃は良かったのに・・・・・・！」 という、恨み節にも似た思いがさらにはっきりと出るかと思いますが、 いかがでしょう。
茜 12/29 0:39	あたしもぶらんこさん同様、５行目で既に。 で、「あー、このあと彼女がいなくなってからの悲しい描写が」とか思いました。 見事に裏切られてそのまま惚気話されましたが。 最後にこう落とすなら、やっぱり５行目は惜しかったですね。これがなければ、最後にただの惚気話で終わらないオチを付けられたわけですが。 にしても、この後の話の続きが気になります。
３匹ヤギの 12/29 2:16	すごく共感できます。この気持ちを大切に生きていってください。
Begonian 12/29 18:35	やはり、「５行目」ですね。 ここで過去完了使われちゃもう、「今は違うのか」としか思えません。 さぁどの方向に引っ張るのかな？と思っていたら、まずは過去話。それが一段落したら、現状を一言。 で、終。 裏切られた気分です。 個人的には読んでる途中に「耳が聞こえなくなっただけ」とかいう妄想が、あー、まぁ、この辺で。
プーギン 12/30 7:42	擬態音がうまく使ってあると思いました。日本語の特徴ですよね。 音の主がお母さんだったのか、彼女だったのか、で読み方が変わりますね。そこが面白い。個人的突っ込みとしては、「ぜんぜんお手伝いしなかったの？」と言いたいけど。
けっちゃん 12/30 15:58	うらやましいなぁ。手料理なんて作ってもらったことない。 っていうか、作れたのかな・・・？ 一つ疑問があります。なんで冬限定なんでしょうか。彼女（もしくは彼）は鍋料理しか作れない？
茜 12/30 23:2	＞プーギンさん あ、そっか。「お母さん」って読み方もあったんですよね。 なんかそう読むといろいろ自然に見えてきた・・・・・んですけど「ピンポーン」ってチャイム鳴らしちゃってるんですよね。・・・・・だからてっきり彼女かと思ったんですが。うーん。
lemontit 12/31 3:1	「幸せの音色」〜〜テーマが綺麗です。 文章を一気に読みました。心が温かくなり、主人公の幸せを 感じました。 擬声詞が多く、描写も細かく、処々幸せな雰囲気一杯です。 自分もこんなに幸せになりたいなぁ〜〜
アボガド 12/31 3:27	そんなできた相棒はいないでしょう！！自分より早く帰ってきてる人にご飯作るなんて
daikonsalada 1/2 17:34	擬声語の使い方うまいですね。勉強になりました。
けろた 1/3 0:3	たしかに時制って大切ですね。最後の一文まで現在形で引っ張ったほうがインパクトがあるようにも思いました。
ローズ 1/3 21:4	お母さん？彼女？ 今の“ 僕 ”は幸せじゃないですか？

ゼットン 1/3 23:31	オチもいいですが、文章を読んでいるだけで自然と頭の中にその風景が浮かんでくるような擬音語がうまいですね。 読んでいて楽しめる作品でした。
mu 1/4 0:18	今年の冬は格別に寒いですね。
King　Power 1/4 0:34	うん、共感できて好きです。この文章。 素直さがいいですね。
Bloomoon 1/4 0:40	お、お腹が空いてきました…… 何気ない日常の話でも、食べ物がからむと印象が強いと思うのは 私だけでしょうか
クリリン 1/4 1:26	あの頃の僕は、ってとこいいです。 幸せなときほどその幸せすら日常とかしてしまっていた自分にうらやましくなるんですね。 この幸せをまた掴んでください！！！

ＴＯＰへ

足音百景

合計ポイント：12 Point
作者：輝
作者コメントを読む

カッツカッツカッツ
これはW大卒スーパー女性マネージャー
軽やかなのに、追い詰められてる

どすっ　どすっ　どすっ
３６５日違う服を着てくるマドモワゼル・ヴァンテーヌ
でもその地響きステップは、何かのプロテスト？

すーいすいすい
背筋を伸ばし音もなく進む姿は美人秘書
チーターのような身のこなし、まさか昭和２０年代のひとだったとは！

タッタッタッタッ　タッタッタッタッ
オレが主人とばかりどんどん先行くケン
孤高の雑種犬は、今日もどこかを走ってる

ひた、ひた、ひた、
真夜中の帰り道、後ろを歩く人が気になる
こちらが急ぎ足になると、後ろも早足

まさか、ストーカー？まさか、通り魔？？

走ろうか、叫ぼうか、それとも。

ようやく玄関までたどり着き肩で息して
かばんを置き時計を外すとすかさず

“ ピンポーン ”

「いっしょに帰ろうと思ったのに。前、歩いてたろ？」

灯台もと暗し。

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
活 12/17 21:29	いいリズム！
インギリー 12/17 21:38	そうですね。 無駄のない文章に惹かれます。
みつきんぐ 12/19 11:45	上手い！！ すごくすっきりした文章ですね。 最後のその状況、分かります。 早く声をかけてくれればいいのに・・・って思ってしまいますよね。
Azalea 12/21 1:26	すっきりと軽やかに読めて とてもよかったです。 いろんな足音ってその人を連想させるものですね。 文章だと余計にそれが強まる気がして、 これからは足音に余計に気が行きそうです。
vista 12/24 11:15	リズムがいいですね！
コーサク 12/25 3:47	子供の頃読んだ本がこんなテンポだったかもと思いました。読みやすかったです。
かぴばら 12/26 16:26	リズムと効果的な擬音の使い方がよいですね。 でも足音ってホントに特徴ありますよね。自分も結構誰かの音か分かるものが多いです。
紫雲 12/26 19:9	お前の足音はやたらと早いか、やたらと音が大きいからすぐわかる、と言われました。 それはそれとして、ひたひたという足音は文字で書くと普通なんですが、イメージしてみると変な音ですね。
あゆむ 12/28 16:40	たしかに足音というのは個性があるのかもしれない。でも、わたしの耳は飾りだから、雑多な足音の中から愛するあの人の音をみつけることができない。
でもどり 12/30 23:30	そういえば、我が家の家族も階段を上る音で誰かが分かるなぁ。 と、この作品を読んで妙に納得させられました。 シンプルでテンポが良くて、タイトルもマッチした作品ですね！
がらがらどん 12/31 10:54	リズムもレイアウトも好きです。 心情や性格が足跡に表れるのかもしれないですね。
がらがらどん 12/31 10:55	足跡→足音
daikonsalada 1/2 18:5	リズムがいいですね！しかも短くて面白い！
ほろほろ 1/3 11:44	足音が話のキーになるので、 もっとうまい、独特の擬音語で飾るのはどうでしょうかね。 このままですと、リズムがちょっと単調に思えてしまいます。
King　Power 1/4 1:10	リズムが良いです。 音がテーマなので、リズムの良さを評価したいです。
いそしぎ 1/4 3:23	題名に惹かれるようにやってきました。 内容は想像とは違いましたが、テンポが良くて爽快でした。

星のおと

合計ポイント：12 Point
作者：Bloomoon
作者コメントを読む

いつからでしょうか、僕は、「星の音」を探していました

澄んだ夜空に輝く、数え切れないほどの星たち
それらが奏でるメロディを、僕の手で、生み出したかったのです

ピアノ、フルート、ギター、ウィンドチャイム……
あらゆる楽器をかき鳴らしては、
イメージが広がらず、がっかりしていました

作曲家として、何とか生活できるようになっても、
満天の星空の輝きだけは、楽譜に表すことができませんでした

そのうち、星とはかけ離れたテーマの曲を書いているときでも、
星の音が気になって気になって仕方なくなりました
そのたびに、頭をかきむしって目の前の曲に集中しようとするのですが、
耳の奥から響く、星空のメロディまでは、消すことができませんでした

ある夜、僕はとうとう、曲が書けなくなり、
書きかけの楽譜をやぶり捨てて外に出ました
外は、満天の星空でした

そういえば、星の音にこだわっていながら、
こんなに澄み渡った星空を見るのは、久しぶりでした
荒れていた気分が少し落ち着いた僕は、
気の向くまま、ぶらぶら散歩することにしました

そうして、街はずれの天文台にたどり着いたのです
古びた窓から、淡いランプの光がもれていました
幼い頃、よくここから星空を眺めていたなぁ……
そう思って、建物を見上げた僕の耳に、かすかなメロディが聞こえてきました

僕は、はっとしました
これこそ、僕の求めていた、星の音だ！！
僕は、我を忘れて天文台の中に飛び込み、メロディの流れてくる部屋を目指しました

バタン！！
ドアを開けると、その女性は、びっくりしてこちらを向きました
メロディが、ぴたっと、止まりました

「驚かせて……ごめんなさい」
僕は、息を切らせながらも、言葉を続けました
「星の音を…探していたんです……あなたのメロディこそ、それにふさわしい」

それを聞いて、さきほどまで歌声を響かせていたその女性は、優雅に微笑みました
驚いていた顔が、ふっと緩んだのです
「ありがとうございます」

それだけ言うと、その女性は僕に背を向け、
反対側のドアから外に出ていきました
「え、あ……」
僕はあわてて後を追いかけましたが、部屋の外には誰もいませんでした

天文台の外に出ると、相変わらず、満天の星空が広がっていました
その中で、おとめ座のスピカが、今までよりいっそう輝いて見えました
僕の胸に、さきほどのメロディが鳴り響いていました
いつまでも、いつまでも……

それから僕は、「星の音」を目指すのをやめました
その代わり、夜空に憧れる僕の想いを、曲に込めました
この曲が、こうして賞をいただいたことを嬉しく思います

でも、忘れないで下さい
実際にこの目で見上げる星空、その星空からのメロディこそが、
ほんとうの星の音なのだと

今夜も夜空を見上げれば、星たちはきっと、
僕たちに向けてメロディを奏でてくれることを……

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
ken 12/18 11:45	僕も星の輝きは音のように感じます。
kunipi 12/20 18:27	とてもいいお話ですね。 きらきら星の英語ver. 「Twinkle, twinkle, little star」を思い出しました。 で、ご質問。 句読点（。）を入れていないのは、何か意図があるのですよね。 結構新鮮でした。作者コメントでぜひ♪

貧保 耐三 12/23 18:50	その女性はスピカだったんでしょうね。素敵な話です。 冬は星空が綺麗なので、見上げてみようと思います。
ひぃ 12/23 21:56	優しい文章の中に、張り詰めた空に響く様な澄んだ音のイメージが重なる。綺麗な物語だと思います。 これは私個人の好みの問題かもしれませんが、「僕」ではなくて「彼」としての物語のほうがイメージに合うんじゃないかなと思いました。
Eisen 12/25 10:9	とてもやわらかい読み味。BGMにオルゴールの音色なんかが流れていると素敵かも知れません。曲はやっぱりきらきら星かなぁ。 筆致は秀逸ですし、言葉がよく選ばれていて、読んでいて本当に心地よかったです。こういうの大好き。 最後のくだり、 　この曲が、こうして賞をいただいたことを嬉しく思います の前後が上手いと感じます。 ちょっと意外で、でもストンと落ちるところに落ちている。心地よい読み味を更により良いものにしています。
ほろほろ 12/25 21:5	『星の音』を、文章でどれだけ描けるかがこの作品の課題かな、と思います。 現実にない『音』を描くには むしろ文章がうってつけだと僕は思っているのですが、 残念ながら僕には音が聞こえてこなかったなあ・・・・・・。 きれいな話だとは思うんですけどね。
かぴばら 12/26 16:23	ロマンチックですね。 「星の音」というと、なぜかオルゴールの音色が浮かびます。
紫雲 12/27 14:48	あまり関係がありませんが、最近木星の電磁パルスを可聴域音に変換した「木星の音」というものが話題です。 http://science.nasa.gov/headlines/y2004/20feb_radiostorms.htm
あゆむ 12/28 16:37	かつてヨハネス・ケプラーは言った。天空の運動は、いくつかの声部(耳によってではなく知性によって知覚される)のための絶え間ない歌曲以外のなにものでもない。 古代の人たちはこのことを知っていて星座というものをつくったのかもしれない。おとめ座の星たちが奏でる歌は理想の女性を想像させる。わたしたちの住むこの青の星はいったいどんな音を奏でているのでしょう。
3匹ヤギの 12/29 2:16	ロマンチストですね。
橘 12/29 22:56	誰もいない夜の静かな道を、一人星空を見て歩くのが好きです。 ウキウキするときもありますが、悲しい時でも心を落ち着かせてくれます。 残念ながら東京ではそれが出来ませんが、 地元でそうしていた時の光景が浮かんできました。 受賞スピーチというのは面白いですね(^ ^*) ただ一点、細かいですけど気になったことが… 「その女性は、優雅に微笑みました」なのですが、 「顔が、ふっと緩んだ」のに「優雅」という表現は少し合わないかと(・・;) 「優雅」って「豪華」みたいなイメージがあるので、少し違うかもしれません。 余談ですが、自分は「雪の降る音」が好きです。 雪が足跡が残るくらいに積もった日は、あたりがしんと静かになるんです。 今年は、聴けるかなぁ…
lemontit 12/31 3:14	「澄んだ夜空に輝く、数え切れないほどの星たち それらが奏でるメロディを、僕の手で、生み出したかったのです」 〜〜夜空に輝く星を見て、夢を感じたんですか？ 「今夜も夜空を見上げれば、星たちはきっと、 僕たちに向けてメロディを奏でてくれることを…… 」 〜〜夜空の星たちが夢を与えてくれましたよねぇ？ 若者の辿りつつ、夢を実現つつ、希望というものが感じます。 初心を忘れず、夢を実現してください。私も、みんなも〜〜

インギリー 12/31 8:58	タイトルは「星の音」だったんですね。 「星ノート」と読んでしまいました。 星の音じゃなくても何の音でも、自分のイメージするものと同じならば良いのです。 作曲家でも作家でも、そんなもんです。 それに共感する人が多ければ、ヒット曲とかベストセラーになるのであって… それはともかく、見つかって良かったですね。
ゼットン 1/3 22:21	夜空の星は僕もとても大好きです。 でも残念ながら星の輝きからメロディを連想したことはありませんでした。感性がたりないのかな（笑） なので、もう少し聞こえてきた星のメロディを文章で表現してもらえたらイメージが膨らんだのかなと思いました。
suburbanian 1/4 0:53	素敵なコラムですね。 思わず微笑んでしまった人が多かったんじゃないかと思います。
King　Power 1/4 1:40	なんか、昔話にありそうで心が温まります。 良いですね。
いそしぎ 1/4 2:48	映画のワンシーンのような流れ、意表を突く受賞スピーチ形式、 すっかり引き込まれてしまいました。 本当に素敵なコラムだと思います。 ただ私には、文中での音（音色そのもの）とメロディ（旋律・音の並び）が区別できず、「星の音」を捉えきれませんでした。 主人公が求めたのは前者でも、女性が奏でたのは後者、というところで混乱したためかもしれません。
いそしぎ 1/4 2:58	ごめんなさい！ 読み返したら、一貫してメロディだった気もしてきました。 あらゆる楽器を鳴らしたということだったのでてっきり…。 自分の想像力不足です。
あゆむ 1/4 11:21	今回はネタじゃないのですね。わたしはこういうロマンチック路線のほうが好きです。

ＴＯＰへ

子守唄

合計ポイント：11 Point
作者：でもどり
作者コメントを読む

小さいころ、夜が怖かった。
暗いのが怖かったのか。一人になるのが怖かったのか。
夜、布団に入ってもなかなか眠ることができないときがあった。

そんなとき、母は決まって、僕に子守唄を歌ってくれた。
初めて聞いたのがいつで、どんな名前か知らない。
どんなメロディかもうろ覚えだけど、とても落ち着く雰囲気で、
それを聞くと安心して眠れたことは、はっきりと覚えている。

僕はそれを、やさしいうた、と呼んでいた。

風が心地よい。
僕は娘の手を引いて、公園に散歩に来た。
暑かった夏も去り、穏やかな陽気と秋らしさを含んだ風が、二人を包み込む。

あれから、一年。
一番大切な存在を交通事故で失って、一年。あっという間だった。
失ってからはしばらく、何もやる気が起きなかった。
仕事も、失敗を何度も繰り返した。
一年たってようやく落ち着きを取り戻し、３人でよく来たこの公園にも、
ようやく足を向けられるようにもなった。

けれど、ここにくるとやっぱり思い出してしまう。
娘のはしゃぐ姿を見ていると、たくさんの思い出がよみがえり、涙が落ちそうになる。
にじんできた涙を娘には見せまいと、空を見上げた。

雲ひとつ無い空は、どこまでも高い。

ル～、ル～、ル～♪
僕はふと、やさしいうたを口ずさんだ。
妻が、ゆっくりと眠れるように。

「パパー、そのお歌、なに？」
歌っているのを見た娘が、僕に訊いた。

「ん？　これはね、おばあちゃんが僕に眠る前に歌ってくれたお歌だよ」
「そうなんだー」
おばあちゃんと聞いて、娘の顔がぱっと輝く。彼女はおばあちゃんが大好きなのだ。
僕は、彼女の頭をなでた。
「はっきりと覚えてないから、ここだけしか歌ってあげられないけど、でも、とっても落ち着く感じだろう」
「うん。だから、おばあちゃんもパパも好きだったんだね。私も好きになるー」

んー、んー、んー♪
僕の真似をして、歌う。

「ねぇ、パパ」
「ん？　何？」
「わたしね、このお歌に、お名前付けてあげる」
「そっか、どんなお名前にする？」

「やさしいうた、っていうの。わたしと同じ名前！」

娘、優歌が歌う。彼女の母のいる、空に向かって。
母へ、子守唄を歌ってあげているかのようだった。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
ken 12/18 11:41	子守唄、歌ってもらったこと幸せです。僕には経験がないので。
ピチョット 12/19 11:10	やさしい子守唄のようなお話です。 自分が小さかったときやさしい歌とよんだように 優歌ちゃんも同じよびかたをしたところに「血」あるいは「DNA」を感じてうなづけました。 ＞kenさんも赤ちゃんだったときだれかに歌ってもらってるはずですよぉ～覚えてないだけです。でももしかしたらやさしい子守唄くらいでは寝付かなかった手のかかるお子さんだったとか？！
みつきんぐ 12/23 19:43	優しいお話ですね。 親子の絆を感じました！
Eisen 12/25 23:42	視点をどこに定めてよいのか、一見して分かりません。 最初は僕の一人称。そのあと母の話になって、かと思えば娘が登場し、《大切な存在》が誰なのかが中々わからず。――登場人物が錯綜して、場面場面の言葉がいったい何を描写しているのかが分かりにくいのです。 二度読めばきちんと分かるのですが、せっかくの素敵な雰囲気なのですから、第一印象でキメたいところ。もう少し言葉を増やしてでも、読者が向けるべき視点を誘導してあげるべきだったでしょう。 情景描写を増やすとか、「娘」「母」「妻」の単語をもう少し出し惜しみせずに使うとか。その程度でもだいぶん違うと思います。

イシルドゥア 12/28 1:51	やさしいうたの名前のくだりがどうにもあざといなぁ、とか思ってしまった穢れ学生です。すいません。 　雰囲気はすっごく好きです。娘と一緒にハミングするところとか。 　ただ、Eisenさんの言うように、少し分かりにくいんですよね。僕としては、人物減らした方がいいんじゃないかなと思いました。娘の口から妻（僕にとって）の話って、実は出てきてないんですよね。なのに、ラストは妻に向かって歌ってることになってるのが不思議だし、大切な存在＝妻なのに妻の話はそのくだりだけだし。思い切って、母（僕にとって）を出さないなり、そこまでしなくても、もっと減らしたら分かりやすくなるのかも。
paco 12/28 18:1	母守唄ですね。あたたかい気持ちになりました。
ひぃ 12/28 21:22	他の人のコメントに「母」を全て「僕」の母と誤読していたことに気づきました。 でも、最後の「やさしいうた」は「娘にとっての祖母」へ向けたほう（誤読した物語のほう）がすっきりしたかなと思いました。
茜 12/28 23:44	雰囲気は好きです。名前も知らない子守唄に、「やさしいうた」って名前を付けたのも好きです。 でも、一番違和感だったのは、「死んだ妻に子守唄を歌う」という部分。 子供に子守唄を口ずさんでやったら、「そのお歌、なに？」って聞かれたとかでも成り立つんじゃないでしょうか。その方が自然な気がするんです。 ここでお母さんを殺さないで欲しかったなー。
Azalea 12/29 2:39	へえ、なるほどと思いました。 雰囲気もとてもよくて、まとまっていると思います。 ほかの方々の意見は特に気にならなかったなあというのが印象です。 これで十分流れは出来ていると思いましたし 特に不自然な点もなかったと私は思いましたが……。
シュトルムティガー 12/30 21:44	心が和むいい作品でした。 年のせいか、このごろはこのような話が大好きです。 私も、たまに子供に子守唄を歌ってやりますが、父親の子守唄は 母親にはかなわないのかなと思ってしまいました
kirie 12/30 22:14	とてもいいお話だったんですけど、私も奥さんは殺さないで欲しかった・・・。あれ？目から汗が・・・・・・。 子供の頃、母親がよく子守唄を歌ってくれたことを思い出しました。
橘 12/31 20:49	自分は３歳位から一人で寝かされていたので子守唄の記憶が全くありません(・・*) どんなカンジなんだろ？ 優しいお話ですね(^ ^*) こんな風にして、心の傷がゆっくりと癒されていくのでしょう。 気になった点が一つ。 人によって感じ方は違うと思うんですが、 奥様が亡くなってからの一年は「あっという間」なのでしょうか(・・?) 自分の感覚としては、ツライ一年はいつまでも続くように長く感じるのですが…
daikonsalada 1/2 18:20	二回目読むとき、思わず涙がこぼれそうになった。 読ませていただいてありがとうございました。
けろた 1/3 0:15	なんか愛を感じました。たぶんフィクションとは思うのですが、無理のない構成ですごく自然に感動しました。
King　Power 1/4 1:43	優しい雰囲気は好きです。 しかし、フワフワしすぎて、キレがもっとあっても良いのに、と思います。

ＴＯＰへ

目覚まし時計

合計ポイント：11 Point
作者：クリリン
作者コメントを読む

人間は慣れることに関してはスペシャリストである。

最初は抵抗を感じるようなことも
いつの間にか自然に行っているものである。

慣れることで一番困るものの一つに
目覚まし時計のアラーム音がある。
ちゃんと目覚ましをかけて寝たのに
耳がアラーム音に慣れてしまって無意識に止めてしまい
朝起きて大慌てした経験はないだろうか。

どんな目覚ましでも最初は耳慣れない音に
警戒心が働いてハッと目覚めるものだが
日が経つに従ってその効果は薄れていく。

この持続力という課題を克服するべく最近では、
音を鳴らしながら走って逃げ回る目覚まし時計や、
時間になると音が鳴ると同時にプロペラを飛ばして
飛んでいったプロペラを時計に差し込まないと音が鳴り止まない
空飛ぶ目覚まし時計なるものが発売されている。

つまり人を起こすのに音だけでは限界があるのだ。
振動する目覚まし枕なんてものもあるが、
これからはあらゆる方法で人間の五感を刺激するような
目覚ましが登場するかもしれない。

ここで敢えて音で起こすことにこだわるならば
どんな音が目覚ましとして持続力をもつと考えられるだろうか。
何度聞いても耳に馴染まない音。

わざと音を外す音痴な目覚まし時計というのはどうだろうか。
有名な曲であれば知っているメロディとの違いが気になって、
寝てられないのではないだろうか。
音痴な曲にも慣れてしまう恐れがあるので、ランダムに音を外すのが望ましい。
多少耳障りだが、ジリリリとなるベルの音ほどではない。

外し具合によってはうっかり名曲が生まれるかもしれない。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
活 12/17 12:34	こういう突拍子もない発想、大好きです。 いっそ、第二段落でこのアイデアをぶち上げて、 たとえ話やエピソードが描かれたら面白かったと思います。 僕の頭にはいろいろ浮かんでしまいました。 （文字数はまだ余ってるからこれから続けてください！）
ハイパー・ワイハー 12/17 15:58	音ではないですが、臭いで起こすのはどうでしょう？ 早く起きないと、部屋中がう〇この臭いで充満してしまう・・・
るらら 12/18 19:25	この時期とくに、寒さも手伝ってなかなか起きれないんですよね。音質も重要です。
pooh 12/19 23:34	確かにそうですね。手が届かない場所にアラームを置いたほうがお勧めです。 うちは壁の防音効果が悪く、私いつも隣の部屋にある止められないアラームのおかげでおきます。
輝 12/20 18:17	マジメなトーンですごいアイディアを語ってるのがいい感じです。 「音痴な目覚まし」のところ、もっとふくらませてはいかがでしょう。 このマジメトーンで笑わせてほしいです。 空飛ぶ目覚まし時計！！！ おもしろいこと考える人がいるもんですねえ・・・朝からエクササイズ！？
vista 12/23 23:42	私も目覚まし時計を知らない間に止めてることが多いです（笑） 結構アイデア商品でうれるかもですね（笑）
シマエナガ 12/25 10:23	楽しいですねぇ！　やっぱりこういう文章もなくては！ 　親しみやすい題材で、読む人の発想を大いに刺激してくれる、と言う意味で、大変ありがたい作品だと思います。
活 12/25 19:49	かえるの歌の、音節の最後の音を半音下げると 絶妙にくすぐったい曲になりますよ。 止めたくてたまらん。 ドレミファミレド　→　ドレミファミレシ ミファソラソファミ　→　ミファソラソファＥ♭
紫雲 12/26 17:48	名曲ができたら今度は音を止めるのが惜しいですよね
SAWAA 12/27 15:55	面白い◎ 確かにっ！と共感してしまいました。特許が取れそうです。 電車の運転手さんの目覚まし時計は背中の中に仕込んで、時間になると膨らんで運転手さんはのけぞって起きるらしいですが、 あえて音にこだわったのがいい着眼点だと思いました。
hanson 12/27 17:30	文章もすらすら読めて、内容も面白かったです。 ＞何度聞いても耳に馴染まない音 プラスチックの箱で黒板を引っかく音とかどうでしょう？
バートルビー 12/27 18:8	介護用ベッドのように起き上がるorベッドが揺れるとかいう商品があったと記憶してます。確か夜勤の人が確実に起きられるようにという目的で。 なので、音は結構慣れてしまうのかなと思いました。 耳蓋とかついてないから慣れるしかないのかもしれないですけど。
３匹ヤギの 12/29 2:15	絶対に起きれる目覚まし時計があれば欲しいです。

茜 12/29 23:38	ケータイの目覚ましで目が覚めないことが続いたとき、アラームの音楽を変えてみたら目が覚めた、なんてこともそういえばありました。 空飛ぶ目覚ましってすごいなあ、と思いつつ、気づいたら話が変な方向に。でも、ちょっと暴走しきれずに終わったような、物足りなさを感じました。輝さんの言うように、もっといろいろ膨らませて欲しかったですね。 ＞hansonさん うっ・・・・・なんか文字見ただけでぞわぞわと・・・・・やめてえぇぇぇ！！
Eisen 12/30 19:13	とある友人は、ダミ声で轟々と録音された唄の入った目覚し時計を、誕生日プレゼントで貰ったそうです。 合宿に持ってくるな！ 外し具合によってはうっかり名曲がうまれるかもしれない。 素敵なユーモアに失笑してしまいました。
がらがらどん 12/31 11:19	目覚まし時計にもこんなに創意工夫がなされているとは、初めて知りました。 コラムのように淡々と書かれていて、とても読みやすいです。
イッパイアッテナ 12/31 17:20	話はとても面白かったです。でも、少し物足りないかな。 オリジナル目覚まし時計についてもっとあったら、お腹いっぱいになれたかも
316L見習 1/4 0:56	私も目覚ましの音にはすぐ慣れてしまうので、携帯のアラーム音を定期的にかえていま…したがもう既存のものにはすべて慣れてしまいました。 是非とも聴覚以外の五感を刺激する目覚ましが欲しいですね。
King　Power 1/4 1:6	最後の一文が好きです。 全体がしまって見えます。
unknown 1/4 3:30	文章がコンパクトにまとまっていて、読みやすい感じを受けました。 後半のオリジナル目覚まし時計のアイデアも面白いですね。 それだけに、後半をもっと盛り上げて欲しいと思いました。 また、重箱の隅をつつくようで申し訳ありませんが、 "人を起こすのに音だけでは限界があるのだ"と断言している部分が少し引っかかりました。 このフレーズより上の部分からは、この結論は予想は出来ますが断言は出来ないと思います。 さらにこれより下の部分へのつながりも、断言してしまうよりも"〜では限界があるらしい" くらいにしておいたほうが良いような気がします。

ＴＯＰへ

命の音

合計ポイント：11 Point
作者：がらがらどん
作者コメントを読む

ある日、座禅をした。

海に面した村の、小高い丘の上の小さな寺で。

私は壁に向かって、禅を組む。

目をつぶって、頭の中を「無」にする。

初めのうちは波の音が聞こえてきた。

鳥のさえずる音も。

でもそれらの音は次第に消えていった。

今、ただひとつ聞こえるのは、心臓の音。

命を打つリズム。これだけは止められない。

でも、脈の音を聞くのは久しぶりである。

都会の喧騒の中で、そんな時間はなかった。

その時、自分の命を感じた。

今、都会で暮らし、働いている。

忙しくて自分を見失いそうになることもある。

でもそんな時は、座禅を組めばいい。

そうすれば、あの音が聞こえてくる。

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
ken 12/18 11:47	僕も坐禅がしたくなりました。
かちかち 12/18 13:17	同感です。自分の心臓の音を聞いてみたい。でも、その前に、竹刀で打たれ、足が痺れて、と、想像すると、なかなか、お寺の門は叩けません。
るらら 12/18 20:1	「無」って本当になれるんですか？ 一度なってみたいですね。
桜子 12/19 14:25	生きていることを日々意識しながら生活する人はなかなかいないですよね。座禅を組むということ心境になるのは、そして、無の心になれるのは「海に面した村の、小高い丘の上の小さな寺」ということに大きく影響されているように思います。自分の音に耳を傾けるのは何であれ大切なことだなと思いました。
茜 12/23 19:47	心の中を空っぽにすると、外からいろんな音が入ってきて、次第にそれも消えて、最後は自分の中の音が浮かび上がる。 きれいな構成ですね。 かちかちさんもおっしゃられているように、なかなかお寺の門を叩くなんて気軽にはできないですよね。 座禅をするに至った経緯であるとか、打たれたときの気分だとかを描写して、「あ、だったらわたしも行けるかな」と思わせるようなコラムだったら、なおよかったんじゃないでしょうか。 あとは細かいところですが、前半と後半、両方に「今、」が使われていることが若干気になりました。 それと「海に面した村の、小高い丘の上」という場面設定が、どうにもあたしにはイメージしづらく。なぜか山奥みたいなイメージがあったせいだと思います。
かぴばら 12/26 16:38	前半の描写に比べて、都会～がお粗末になっている印象です。 オチとしては中途半端で、かといってこの件がなくても宙に浮いたような文章になりますし。 もう少し都会に関する描写もあっていいのかなと。
輝 12/26 18:25	短い一行一行、行間から、命の鼓動が聞こえてくるようでした。 ロケーション描写に戸惑われた方もいるようですが、わたしは、伊豆のお寺なんぞをイメージしとりましたよ。
紫雲 12/26 18:31	一度座禅ができるようになれば、あとは一人でできるようになるってことでしょうか。
イッパイアッテナ 12/28 13:49	坐禅かぁ。心臓の音、聞いてみたいですねぇ。 波→鳥→無、ではなくて心臓の音っていう流れがとてもきれいだと思います
あお 12/28 16:13	心を空っぽにするのって難しいですよね。目を閉じてるとどうしても雑念が浮かんでしまいます。
Begonian 12/29 17:52	禅、やはり敷居の高さが気にかかりますね。 この手の話って、読み終わった直後の読者が「僕も！」「私も！」とか思うものに限って、少し後になって「やっぱり無理…」ってなりやすいんですよね。 かといってそう思わせられないってのもイマイチだし…、っていうスパイラル、この作品もその手の内だと感じてしまいました。
レロニラ 12/29 18:9	雑念をなくして心を無にするなんて私には出来る気がしません。尊敬します。 輝さんのコメントで気付いたんですけど、行間の取り方が鼓動というか一定のリズム感を読み手に無意識に想定させるようでうまいですね。だからとても読み易かったんだと思います。

橘 12/30 11:37	「悲痛」のことを英語で「Heartbreak」といいます。 本当に悲しくてツライ時、心臓が壊れてしまったみたいに、 「ズキン、ズキン」と締め付けるような脈を打ちます。 心臓の鼓動は、そのままその人の心情を表すのかもしれません。 座禅をすることで聴こえてきた音は、命の音だった。 そういう結論に至ったわけですが、 座禅のもともとの宗教的な意味はどんなものなんでしょうか？ それを作品の前半部分に加えてもいいかもしれません(・・*)
あゆむ 12/30 23:59	きっと、命を感じれば世界を見失わないのですね。 自分の命を感じ、相手の命を感じる。 世界がよく迷子になるのはそれをしていないからなのかもしれない。
lemontit 12/31 3:7	「命の音」、重いですねぇ。＾＾ 命は脆いものの、「忙しくて自分を見失いそうになることもある。」 最近、忙しすぎて、将来に不安を感じて、時々泣きそうになる時があります。 自分も座禅を試してみます。 自分を見失わず、本当の自分を感じたい〜〜
スマイリー 12/31 17:47	私はランニングをしていますが、走っているとだんだん何も聞こえなくなり、最後には心臓の音と血液の流れる音が聞こえます。座禅と同様に、そんな時、生きていることを実感します。
daikonsalada 1/2 17:40	共感があります。 人は流されないように頑張っていますが、結局自分を失ってしまいます。 「坐禅」の時間は私たちにとって必要です。
Eisen 1/3 6:22	今回、「音」のお題に対して「無音」を使った作品は多く見られました。そんな中でもう一歩進めて、無音の中に現れる「命の音」につなげたのはすばらしいと思います。 でも、それだけなんですよね。 「命の音」に対しての思いや感情が、ほとんどない。少なくとも伝わってこないし、掻き立てられるもあまりしない。 なら他の、メッセージ性、諧謔味、芸術性、等々の読みどころがあるかというとそれも薄い。 お題の使い方が上手いだけに、とても勿体ないところです。 もうちょっと肉付けして、表現や構成を工夫して膨らめてやれば、もっと凄く佳い作品になると思います。 と、恐れながら次回作に期待を膨らませるEisenでした。
ゼットン 1/3 22:38	そういえば、自分の心臓の音を聞いたことがないかも・・・。 と言うよりも、聞こえているけど意識したことがない。 『命を打つリズム。これだけは止められない。』 このフレーズになぜか感動しました。 当たり前のことだけど、こんなこと考えた事なかったので。
Bloomoon 1/4 0:42	シンプルな文章が、 我々の原点「命の音」に通じていて、味を出しているなぁと思いました
King　Power 1/4 1:4	座禅、した事無いのでトライしてみたいです。 心臓の音がなくなった後は、どのような世界が広がるのでしょうか。
鳥 1/4 2:12	ジョン・ケージの4分33秒の世界ですね。 どんなに「音のない」世界に行っても自分の命を維持する音だけは止められない。 忙しい世の中で、ふと無意識に切り捨てている音に耳を傾けると、 ちょっと違った心持ちになれますよね。

ＴＯＰへ

足音

合計ポイント：10 Point
作者：go19
作者コメントを読む

我が家の夜は早い。

子供たちは、だいたい夜の九時ごろには床に就く。早い日には、夜の七時くらいに寝てしまう日もある。だから、私は夜遅く家に帰ってきたときには、物音に気を遣う。
玄関のドアをなるべく静かに開けて入る。入ったら静かにドアを閉めて、泥棒と間違えられないように、小さな声で「ただいま」と声をかける。このとき、誰かが起きていれば「おかえり」と声が返ってくることになる。

しかし、妻も子供もみんな寝ていることもしばしばある。そういうときは、なるべく静かに靴を脱ぎ、玄関に上がって居間に入る。このとき、玄関から居間へ続くドアも、玄関ドアと同様に静かに開け閉めする。そうして、居間から二階へ続く階段を、足音を立てないようにそっと上っていく。

子供たちは、二階の寝室に寝ている。もうすっかり寝入った後であれば、少々の物音では起きない。しかし、寝入りばなではわずかな物音でも目を覚ますことがある。目を覚ますと、子供は当然に機嫌が悪い。子供がぐずることは、私にとっては別段構わないことなのだが、子供を寝付かせたい妻にとっては、非常に都合が悪いらしい。というわけで、私は主に妻の為に、寝入り端の子供を起こさないようにしている。

二階に上ると、音を立てないように細心の注意を払って、寝室のドアを開ける。ドアを動かさないようにして、ドアノブだけを音を立てずに回す。それから、音を立てないようにそっとドアを開け、中の様子を伺う。妻子が寝ていることを確認すると、そのままドアをさっきと同じように、かちゃりとの音も立てずに閉め、足音を立てないように階段を下りる。

私は一階に戻ると、部屋着に着替えて夕食を摂る。夕食の後は、本を読んだり、小さな音量でテレビを見たりする。こういうときに、階段を下りてくる足音がしてくることもある。私が、妻が下りてきたのかと思って「ただいま」と声をかけると、足音の主は猫だったりすることもよくある。

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
ken 12/18 11:35	日常の何気ないことですが、ほのぼのとしています。
みつきんぐ 12/19 17:24	すっごくほのぼのしてますね！ 最後の段落がまた良い味を出しています。
サンダーバード 12/22 8:46	足音は気になるので、注意しているのがよく分かり、音というテーマをしっかり掴んでいるところが良いです。
イシルドゥア 12/25 23:1	サンダーバードさんの言うとおり、すっごく音ってお題を意識した作品なんだなあってのが伝わってきました。 　昔、受験期に家族が寝るくらい遅くまで勉強してた（多分）とき、寝室が家族一緒だっただけに寝るときにものすごく音に気をつけて行動した覚えがあります（母が起きてたりしたとき、なぜかこそこそしないって怒られたこともありましたが） 　何だか、そのときのことを思い出して、すごく共感しました。 　何となく、最後がプツッって切れちゃった印象を受けてしまいましたが、全体に暖かい感じのいい作品だと思います。
Azalea 12/27 3:23	ほのぼのとした感じで、うまく音を生かしている作品で とても面白く読みました。 ・・・さみしさを感じる文章であるとも思いますが そのあたりは、どうなのでしょうか？ ほのぼのととるか、哀愁ととるかでがらりと印象は変わりそうです 私も、イシルドゥアさんと同じで、もう少し最後をうまくまとめると とてもいい作品に仕上がったかと思います。 えっ、これで終わり？　という感じだったので。 （落ちてはいるのですけれども・・・）
鞦韆 12/28 8:58	『足音』に注目することで、それを際立たせる要素である、『夜の無音』が良く見える作品だと思います。 猫の足音なんて、よほど静かでなければ聞こえないのではないでしょうか。
イッパイアッテナ 12/28 14:5	ねこー、かわいいよ、ねこーーー ほのぼの文章に、猫なんて、反則です。
あゆむ 12/28 16:39	家に帰って、だれもただいまと言ってくれないのは寂しいこと。家に人がいるならなおいっそう。でも、しかたない。子育てで疲れた彼女を起こすわけにはいかない。わかっていても寂しいものは寂しい。 きまぐれ猫にみゃぁと言ってみますか。ちゃんと小さな声で。
茜 12/29 23:32	最後が猫じゃなくて、奥さんが出てきて「おかえり」って言ってくれたら、ほのぼのの方に傾いたんじゃないでしょうか？ ただそうすると一気に糖度あがっちゃいそうで、甘さ控えめ好きなあたしとしては、これくらいでよかったかなあ、と思います。 ただ、猫を飼ってるという感覚がなかったので、「え？！家の中になぜ猫が？！」と戸惑ってしまったりもしたのですが、まあそこらへんは単なる勘違いってことで。
橘 12/30 22:13	最後のオチでコテンときてしまいました(^ ^;) 『「ミャー」と返事が返ってくることもよくある』でもいいかもですね。 これだけ早く家の明かりが消える家庭も珍しいのでは？ 隣の家の小学生は１１時くらいでも元気です。 （大家サンなので何も言えません） 作者サンの肩身の狭さがいい具合に見え隠れしてますね(^ ^*)

でもどり 12/30 23:10	私はほのぼのより、企業戦士なお父さんの寂しさ、 という印象を受けました。 リアルに状況が浮かんでくる作品で、こちらも今日はなるべく音を立てないように階段を降りよう、とか思わせられます。 最後の猫が良い味だしてます。鳴いたりしちゃったら、最高。
Begonian 1/2 22:30	ほのぼの……？ 正直なところ、ヤマなし、オチなし、意味……はなくはないけど。 個人的にはちょっと物足りなさ過ぎでした。 いくら日常系のお話といっても、もう少し「読み物」としてのらしさ欲しいですね。
ほろほろ 1/3 16:9	一行目の『夜は早い』ですけれど、 これに代わるしっくり来る表現って、なんでしょうね。 『朝は早い』なら、生活の始まる時間帯が早いという意味としてわかるのですが、 『夜は早い』だと、５時くらいに夕食にする家族の絵が浮かびませんか。 床につくのが早いというのはささない気がして。 『夜は短い』とかが適当なのかしら。
parakeet 1/4 1:48	実家に帰って弟に音を立てるなと怒られたことを思い出しました。 うちも猫を飼ってれば、ぼのぼのするんだろうか…。 わざわざ二階に行って寝ていることを確認しなくても… と思うのは、僕にまだ子供がいないからなんですかね。
インギリー 1/5 10:18	猫 私も大好きです。 よかったらプロフィールの画像に猫さまの写真を載せてもらえませんか。
go19 1/6 8:54	猫の写真載せました。 インギリーさんとこのうさぎもかわいいですね。
インギリー 1/6 18:10	わぉ　かわいいでしゅ ありがとうございます～

ＴＯＰへ

休みの「音」

合計ポイント：10 Point
作者：いそしぎ
作者コメントを読む

ダ・ダ・ダ・ダーン！

ベートーベンの交響曲第五番「運命」の冒頭部は、
余りに強いインパクトを私たちに残す。

ただ私は最近まで知らなかったのだが、
楽譜上は最初の音はなく、実は休符になっているのだ。

つまり、

“ン”・ダ・ダ・ダ・ダーン！

になる。

あれ、そうなのかと拍子抜けしてしまう。
「いっせーの、ホイ！」で始まると思いきや、はじめが休符とは。

音楽をやっている友人に、そのことを話したところ、
「とんでもない！」
と、たしなめられた。

たしかに休符は音符とは違い、何の命令もない。
しかし、休んでいろということではないらしいのだ。
音符に休符が加わって、はじめて音楽が成立する。
だから、一瞬たりとも気を抜けないという。

絵画で考えるとわかりやすいかもしれない。
もし何の色も塗られていない部分があったら、それは手抜きだろうか。
いや、それは空間として、対象物の存在にとって不可欠なものとなっている。
水墨画などは最も良い例だろう。
残りを何か別の色で塗りつぶすなど、もってのほかである。

「休符は休むな」
無の部分があるからこそ、有が定義できる。
隠れた名言だなと感じた。

最後に再び、オーケストラに話を戻す。

はじめから終わりまで引き続けているバイオリンと、
20分の曲の終わりに一発だけシンバルを鳴らす人の、
ギャラが同じだと聞いたことがある。

なんとも受け入れがたい話である。
一発の重要度が違うのかな、と自分なりに理由付けしていた。

そこで先ほどの、「休符は休むな」という観点で考えると、
話はすっきりしてくるかもしれない。
バイオリンもシンバルも、同じ音楽を演奏する限り、
その譜面は必ず音符と休符で埋め尽くされている。
したがって、ひとつの曲という意味では、
全く同じパフォーマンスが求められているのではないか。

シンバルの彼は、19分59秒の間休符を演奏しつづけているのだ。
決して今夜のおかずを考えているわけではない。

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。
コメント登録

投稿者	コメント
ハイパー・ワイハー 12/17 15:56	ですよねー。 おかずを考えるだけなら、オレでもできますもん（笑）
contax139 12/20 13:41	音無しの音ですね。 シンバルの彼はいつも非常に気になってみています。
Azalea 12/21 1:24	なるほど。 プログラムにも空文というのがあります。 本当に何もしない文なのですが、 文があることが重要な場面ってありまして、 ちょっと似てるなあと思いました。 シンバルとかは目立つので、ミスったときのダメージがでかそうです。 きっと、彼は彼なりに大変なんでしょう。 逆に演奏しない分、集中を途切れさせられない難しいパートなのかもなあと 改めて思いました。
まち 12/23 7:29	読みやすかったです。 よく考えないで聞いていると、理不尽だなぁと感じてしまうお話に、 別の視点を加えることで、全く新しい見せ方をしてくれる・・・ こういう文章は読んでいてふむふむと楽しいです。 細かなところですが、気になったところがあります。 ＞「休符は休むな」 ＞無の部分があるからこそ、有が定義できる。 休符は休符という記号であって、無ではないよなぁと思いました。 作者さんも最後の方で、 ＞その譜面は必ず音符と休符で埋め尽くされている。 と書かれているので、表現の統一が行き届いていなかっただけなのだと思いますが。

ひぃ 12/23 21:8	「休符を演奏する」 ふと、高校時代に吹奏楽で言われた言葉を思い出しました。実際、休符の間にやらなきゃならないことっていっぱいある気がします。 短い休符があることによって、次の音に鋭さが生まれることがあります。運命の冒頭のインパクトはそんな部分から生まれてくるのですね。
hanson 12/27 17:24	へー＆なるほど、って思いました。 読んでためになる文章ですね。こういうのが増えればいいのに。。。
sum1 12/28 1:5	会社組織でも、熱心に働く人とそうでない人がいる場合、 「なんであいつは真面目に働いてないのに給料が俺と同じなんだ？」と 不平不満が出ることがあるかと思いますが、 この「休符は休むな」理論から見ると、彼らはサボっている（？）なりに仕事をしているということなのですね。 なかなか奥が深いです。
鞦韆 12/28 9:7	読み返すたびに、最後の一文で噴き出してしまいます…。 今夜のおかずを考えながら演奏をしているバイオリニストもいるかも知れませんよ！いわんやシンバルの彼をや。 でも、確かに休符のところで今夜のおかずを考えるのは結構難しいかも知れません。長い休符だと、どうしても他のパートの音を聞いてしまったりしますからね。
はつね 12/28 23:49	「休符は休むな」という表現で最初は戸惑ってしまいましたが、すっきりとしたわかりやすい文章だと思います。 長い休符のときは、大体リズムを取っていますね。休符の次の音というのは曲調を決める上で非常に重要なので。 ところで、大体最初に休符が入る曲は、曲の最後の小節の音数が足りなくなっていることが多いようです。多分最後で合わないつじつまを最初で合わせているんでしょうね。
大黒様 12/29 15:58	ギャラは一緒でもバイオリンの人よりもシンバルの人は脚光を浴びることは少ないだろう。
イッパイアッテナ 12/30 19:1	休符は休むなかぁ ベートーベンの例えがあるので、うまく頭に入ってきました。(そういえば、第九って) 非常に読みやすく、主張をちゃんと伝えきれているいい文章だと思います。(これまた、学部の受講生に読ませてあげたい。) ＞シンバルの彼 思えば、シンバルの人って大変ですよね。 音楽の演奏って、どんなに優れた奏者でも必ず間違えてしまうものなのだそうです。ただ、一流の奏者は間違えても間違えていると周りにわからないように弾くので、一つの流れとして聞くと、町が絵のない素晴らしい演奏になるそうです。 でも、シンバルの人は間違えられません。あんなに響くものを間違えてしまったら、流れが断ち切られてしまいます。 20分弾き続けるのも大変ですが、20分を壊さないように締めるのも同じくらい大変なんだろうなぁって思います。(っと変な方向に話をそらすやつ)
Julio 12/30 22:38	オチも含めて面白いコラムでした。次にオーケストラを聴く機会があれば、シンバルの方はもちろんですが、弾いていない方の動きまで目で追ってしまいそうです。 最後の一瞬に最高のパフォーマンスを求められるというのは、精神的には非常に辛そうです。ビビリな自分は、20分間弾き続ける方を間違いなく選びますね。
あゆむ 12/30 23:42	大黒さんの言うようにシンバルはあまり脚光を浴びないかもしれない。名バイオリニストとはよく聞くけど、名シンバリストというのは(少なくともわたしは)聞いたことがない。 シンバリストになる人は一体どういう動機でなるのだろう。
ピチョット 1/2 18:14	確かにシンバルは19分59秒間は音をためているという感じがします。役目はおおきいと私は思っていました。ビビイーンとくるというか出番の多さではない、なくてはならない音だからです。最後のかけ離れたおちが面白かったです。
ローズ 1/3 21:29	葉が花をもっと美しくする。休符は音符をもっと美しく表現させる。ですよね。

てん 1/3 23:20	「運命」の休符、バイオリンとシンバルのギャラ、休符の演奏。 なるほど、勉強になります。 私もだらしないオフを、次のオンのために有意義に使わなければ。
King　Power 1/4 1:8	お笑いの「間」のようなものなのでしょう。 面白いと思います。
鳥 1/4 3:6	その極致がジョン・ケージの「4分33秒」なんですよね。 その楽譜は、 I tacet II tacet III tacet （tacet=その楽章は音符なし。オーケストラのパート譜でたまに見かける） となっていますが、それでも奏者は「演奏」しなければいけないし、 楽章の切れ目をお客さんにわかるようにしなきゃいけない。 ある意味苦行ですよねw ところで作品で触れられているシンバルの件はドヴォルザークの「新世界より」かな? あれってシンバルは4楽章にメゾフォルテで1発あるだけなんですよね。 でも実は、通常の演奏ではトライアングルと掛け持ちするケースがほとんどとかw ＞ピチョットさん 「19分59秒間は音をためている」で思い出したんですが、 ドラクエの「序曲」はメロディーができるまでに5分と掛からなかったらしいですが、 すぎやまこういちによれば「5分+54年」であって、それまでの54年の人生があってこその5分の作曲、ということらしいですね。

ＴＯＰへ

音

みなさま、あけましておめでとうございます!!

2008年の初仕事が、このページの更新でとてもうれしいです。
暮れにコメント数が少なかったときはハラハラしたけれど、急遽コンテスト期間を延長して、新年のゆったり気分のなかで充実したコメントもたくさん入り、いいコンテストになりました。
何よりびっくりしたのは、51作品もあって、各人3票しか投票できないのに、0票作品がたった１つしか出なかったことです。これは、とてもすごいことなのでは？　各作品それぞれにどこかしら取り柄があって、80名近くの読者さんの誰かのアンテナにはビビッと反応したということなのですから。
コラムランドは順位を競う場ではない。多様な作品、多様な読み方を許容する場なんだ。そのことを参加者全員で実践できたことを、とても嬉しく思います。みんな、ありがとう！

では、各作品を私なりに位置づけてみます。
夏のあいらんども含め、史上最大の投稿数となった「音」コンテスト。さながら一大交響曲。よって交響曲らしく、四つの楽章に分けてみました。各楽章のモチーフと組み立ては以下の通りです。

第一楽章　　人の立てる音。まずは、ひそやかに。しだいにクレッシェンド。
第二楽章　　機械の出す音。こちらもまずは控えめに。やがてクレッシェンド。
第三楽章　　音について、しばしの沈思。
第四楽章　　人と機械が協力して奏でる音。すなわち音楽へ。

第一楽章　人の音

全17作品。ちょうど三分の一を占めました。

命の音

かすかに、けれど休みなく打ち続ける命の音、鼓動。
座禅を組んで心を無にすれば、きっと聞こえてくるだろう。
「自分の命を感じた」に集約されるムダのない言葉づかいで伝えたいものの形はクリアです。
ただ体験談にしては、風の匂い、波の煌めきといった〈その場らしさ〉が稀薄で、そこがつくりごとめいた印象となって残念でした。特に都会暮らしのバランサーにいいですよ、なんていうとってつけたような処方箋は、せっかくの興を殺ぐだけなのでは？

なんの音

こちらは「人」じゃないのですが。
鯉の跳ねる音。これもまた、せいいっぱい自分の「命」を主張する音と聞きました。読者も一緒にどきどきできます。
留学生さんの日本語って、日本語の原石のようで、私たちが知らず知らず角を丸くしてしまった表現をしっかり原点に戻してくれる感がありますね。

　たとえば下記の文章、臨場感という点において巧拙を超えて秀逸と思います。

水が積んでいるボールから飛び出して、まだがんばって生きているコイが二匹、目の前にでていた。ちゃんと間隔を計って床に踊っている。

古今「音」物語

　こちらも「人」じゃないのですが。
　蛙飛び込む音から発展させて建築空間の闇の意味へ。
　音が序奏としてしか機能しなかったのと、主題の南寺についても闇の広がりという以上の説明がないので、未知の読者は魅力の受けとりようがなく、「私も、直島行きました」と体験者の共感しか呼べなかったのでは。
　せっかくいい素材に着目したのに、素材のまま読者にゆだねてしまった感。

　命の音という点では咀嚼の音もそうですね。これに着目したのが２作品。

無音飲食

　まずは悲劇のヒロイン登場。途中で結末は読めてしまいますが、それでもていねいな描写でラストまで連れて行ってくれます。
　ただ、プロットだけでドラマ性に乏しい感。独り語りなのに「彼女」と妙に客観的口調なのが災いしてるのでは？「ああ、彼女は凄いな」ってヘンじゃない？？
　それにしても、彼女は死んだのか否か、いやそもそも人間ではない？？　と、これほど解釈が分かれたのは作者さんの想定外だったのでは。
　おぼつかない手つきで我が家のキッチンで餃子を焼いてたRIRIさん、クリームシチューを一週間煮込んだらどうなるか、お料理の勉強ももっとしたほうが説得的なストーリーが仕上がるのでは。

オットのオト

　こちらは咀嚼の音を遠慮会釈なく響かせて、トトロ体型の夫が悠然と登場。
　どこの家庭でも発生してそうな案件ですね。
　それを少し考察して、単なる「音」でなく「オットのオト」がいらいらの原因とせっかく掘り下げたのに、「坊主にくけりゃ」とあらぬ方向へ脱線してしまったのが惜しい。
　原因の分析と解決策の提示があれば・・なんて無理難題でしょうか。

おなら

　うん、たしかに人の立てる小さな音だ。ある意味、命の音でもあり。まあ、あまりにストレートなタイトルは、もうちょっとエレガンスが欲しかったけれど。
　ちゃんと作者さんにシンクロして遊んだコメント陣が愉快でした。

　鼓動に咀嚼音に、といろいろあるけれど、人の立てる効果音の代表は、やっぱり「足音」でしょうね。
　足音作品、４ついただきました。

足音

　はじめは忍び足。寝静まった家にひとり帰る旦那さん。
　哀愁かなと心配する声もありましたが、これが日常で御当人が納得しておられるなら、しあわせのひとつの形と言ってよいのでは。
　忍び足が得意なはずの猫ちゃんが、わざと足音立ててお出迎えだったりしたら、スーパー猫ちゃんですね。

音と気持ち

ついで、ふつうに足音。
守ってくれる親の音。助けてくれるルームメートの音。ちょっと怖い先生。
短いなかに異なる三つの要素が入って構成に気を使っているところは良いのですが、結論があまりに平凡。抽象的すぎるタイトルともども、改善ポイントでしょう。

足音百景

より細やかな聞き分けへ。
人間観察は鋭いのですが、最初の三名がオフィスの女性三態だっただけに、いきなり犬で途惑ってしまいました。上司や窓際さんなど混ぜて、もう少し寄り道してから家族へ着地したほうが「百景」らしさもより出て、良かったのでは。

階段を鳴らす

足音篇のさいごはドラマ。
やさしいのに、むずい。
登場人物は、僕とおじさんと小出さんと彼女、でよいのでしょうか。それとも小出さん＝彼女？
時制は？
えーと、「今」と「初めてこの建物を案内してもらったとき」の２つがあって、納戸見学したのは後者で、ということはトトロトークも後者で、じゃあこの回想シーンはいつ終わるの？　２行明けを手がかりにすると「２階へあがった。」まで？
そうすると最終シーンで「きれい」と言ってるのは何のこと？？
ひとつひとつの表現が練り込まれているだけに、そのパーツをどう組み立てると「正解」なのか、そして全体として何を表現したかったのかが謎のままです。作者さーん、ウォンテッド！

足音から音はさらに広がって生活音へ。

幸せの音色

鍋のぐつぐつが、ラストですうっと湯気のかなたに消えて。
音で幸せを感じさせた描写が、飾り気のない親しみやすさで、まさに寄せ鍋の素朴な味わいでした。「チチチチチ・・・、ボッッ」のくだりが、特にあたたかい。
お料理一緒に作ればあ？　という声もありましたけれど、料理人としては献立は最後まで秘密にしておいて、おぉ、おいしそうと顔をほころばせてもらいたい。そんなサプライズ精神もあるんじゃないかなあ。

喧騒後の虚しさ

うんあるある。そう「軽く一杯」が軽く済んだ試しのないのが人生の教訓。隣のテーブル、ウルサイなあと思っているうちに、自分たちも盛り上がっちゃうのも呑み会の常。等身大の語りで共感を誘います。
このお父さん、ドアチェーンが閉まってたことなんて、きっとないのですよね。だいじょうぶ！

鼓動に足音に、お料理の音に。
いろいろあっても、人の立てる音の究極はやっぱり「声」でしょう。簡単に擬音で表せないほどに多種多様で奥深い。このむずかしい切り口からトライしたのは４作品です。

しあわせの音色

とても、おなかがすきそうな、続きが気になる連続ドラマです。
彼の声だけを取り出して「音色」と位置づけてしまうより、音との絡ませ方にもっと工夫がありえたかなとも思いますが、知らず知らず、まりちゃんを応援したくなる共感度大の筆致でした。

海、静寂、浜辺にて

――なんかもう。なんかもう。
作中のフレーズそのままの読後感です。男同士のじゃれあい、って、こんな感じなんですかねぇ。AだのDだのと記号化して、各人物の個性はしっかり殺してるのに、関係がリアルに浮かび上がってきて、うまいなあ。小手先で作れそうなお話じゃなし、実話と確信！　いいんじゃないでしょうか、本人どうしがしあわせならば。
しかし、浜辺で転んでも大過ないでしょうが、階段にはくれぐれもご用心。＞作者さま

生を伝える音

祈りの声。街に流れるコーランの詠唱。旅先で出会った「想定外」をしっかり受けとめて、生きている宗教を自分がどう感じたかを伝えたところが良さでした。
ただ、人にしろ、建築にしろ……と結論めいたまとめをしたラストは急ぎすぎでしょう。
スピーカーの声ひとつで「生活に密着」とあっさり片付けてしまわないで、その詠唱の間、街のひとびとはどんな行動をとったのか、観光客につきまとう、あのしつこいバザールのおじさんも、この時ばかりはお客さんを放り出して礼拝したのか？　人々の表情や声や、もっともっと細かな観察を積み上げてから結論へ行きたいところです。

星降る夜の千の声

人の音パートのフィナーレは、フィナーレにふさわしく声が消えゆくお話です。
千佳さんの存在が薄くなるごとに、彼女の声が欠落してゆく。比喩としては分かりやすく、見せられる光景も美しいのですが、カナメとなる「僕」の心のうつりゆきが読み切れませんでした。欠落の原因を聞かされて、なぜ「安堵」したのか、「安らぎを貪り続ける」って具体的には関係をだらだらと維持すること？？
そんな感情面の薄さとウラハラに、大きな目や「一緒に、アカルイミライ、見たいの！」という甘え口調がクローズアップされて、そのあたりいわゆる二次元っぽいかな。
そんなある種「軽み」のようなものを目ざしたとしたら成功と思います。

人の音のラストはドラマの背後に響く運命の音階。

不協和音

まったくヒドい男です。こんな容赦ない振り方をしておきながら、「損な性格だよな。」と自己憐憫ですか。
と読者がこいつを嫌いになってくれたら、作者さん成功かな？ あまりに定番の光景なので、さらっと読めてしまって〈仕掛け〉になかなか気づけませんでした。
ドレミファソラシドの不協和音。さて、こめられた含意は？　気づいてまたまた考え込んでしまいます。人は運命の階段をただ昇ってゆくだけということ？？
降参です。作者さんウォンテッド！

第二楽章　機械音

まずは星空へと響くかすかなシャッター音。

空を見上げれば

シャッ。
機械音なのに、人の祈りがこめられた音。待つべし待つべし20分。
緻密な描写は、たぶん実体験ベースなのでしょうね。臨場感が伝わってきます。
仲間と出かけているのに、その「声」はいっさい聞かせず、星空とひとり対峙している光景にしたのも、読

者の耳にシャッター音をしっかり響かせる、いい効果を生んでいると読みました。

　ついで、かすかだけれど、とても気になる携帯君の震え。

バイブ

　わかるわかる！　の大合唱でしたね。共感度の高さがこの順位まで押し上げてくれたのでしょう。
　誰しも経験していそうな瞬間をさくっと掬い上げて、電車の中の現在進行形で呟きのように。
　そんな日常感覚が、何よりの良さと読みました。
　その恋、実りますように！

ヒトリノ朝

　一転、悲しく。
　生き物のように動いて、ついには落下しちゃう携帯君が哀れを誘います。
　で、なんでこうなっちゃったのか、その背景のドラマがもう少し見たいかな。
　「バイブ」のほうは待っている幸せ感に、読者がそのままシンクロできてしまうので背景ドラマなしで行けるのですが、こちらは「どうして取ってあげないのぉ？」と読者をやきもきさせるぶん、作者さんに説明責任が生じる感があります。
　同じ題材なのに読後感は合わせ鏡。それもこの場のおもしろさと言えそうです。

　もっと継続的になってパソコン、カタカタ。

夜のお仕事

　おぉ、そう来たか、とラストでびっくりです。
　その上で、僭越ながら、いくつか技術指導をば。
１．こうしたサスペンス・タッチの場合、「私は」という主語をもっと省くと緊迫感が増す。
２．特にずっと私視点なので、「突然私に緊張が走った。」なんていう客観表現をはさむのはリズムが崩れてNG。
３．すべて過去形で書くと語尾が単調になり、ハラハラ感も稀薄になるので、核心部分は現在形にするとよい。「思わず息を呑む」のように。

　ここちよい機械音をもう２シーンほど、どうぞ。

私の恋の応援歌

　電車です。
　それもコアに京急です。
　状況はよく見えてくるし、参考URLを載せてくれた親切さもうれしいけれど、核となる京急の音が「ディラディラディラディラディ～ラ～」だけでは、しろうとさんには不明で、お話の核であるだけに、もどかしさ倍増。できれば京急の「あの独特の走行音」を何とか作者さんなりの表現でつかまえようとして欲しかったです。
　重い/軽い、リズミカル/ぎくしゃく　都会的/鄙びた　そんな身近な言葉で良いので。

手と耳と

　こちらはレトロに工場で。
　渋いですね。神の耳。「そこに座っているだけで、お前もちゃっかり仕事をしてるのよ」のセリフに痺れます。
　もう、ほんとうにみごとな「神の手」さながらの職人芸なのですけれど、さいごのさいご「ずるいのはお前の方だ。」の一言だけが蛇足だったかなあ。「ずるい」というネガティヴな言葉が悠然たる渋カッコイイおふ

たりに似合わない感です。
　まあしかし、底力を見せつけての三位となりましたね。おめでとうございます！

　ここちよい音をしばし離れて、ありがたいんだけれど、ありがたくない機械音へ。そうジリリリリとけたたましい、みなさまの朝のベスト・パートナーです。

ある朝の光景

　発車ベル転じて目覚まし音。いやもうシンプルにしてシュールな仕上がりに絶賛の嵐でしたね。
　言葉の刈り込みワザのお手本でしょう。ぶっちぎりの首位、おめでとう!!!　さすがに、ここまで伸びるとは正直予想しなかったけれど。
　で、舞台裏を申し上げると、この作品、当時入院中だった作者さんが携帯で送ってくださったものをワタクシメが代理投稿したものなのです。　「ベッドの上」への着地もむべなるかな!!

目覚まし時計

　うわあ空飛ぶ目覚まし時計ですか。人類の悩みは永遠ですね。
　ランダム音痴目覚まし時計は新しいかもしれないけれど、迫力はどうなんでしょう。そこが心配。
　などと、読み手も一緒にいろんなアイディアを考えたくなる、とても誘い上手な口調でした。

　時計パートのラストは、おなじみおじいさんの古時計。

大きな古時計

　時計君の側からみた語り。しみじみするけれど、やはり歌詞に頼りすぎでしょう。
　これほど長々と引用する意味が見えませんし、むしろ歌詞引用なしで自力でストーリーを立てたほうが時計君の個性が立った気がします。
　あと、いかに閉じた場であっても、 引用の場合、引用元の明記は必須です。ご用心。

　ジリリリリくらいでは済まない轟音でクライマックスへ。

あいつ

　バイクです。
スピード感・緊迫感は伝わってくるのですが、どうしてもラストが・・・
　幻の赤いライダーさんの正体は何でしょう。それこそ自らが見た幻に過ぎない？？
　フィニッシュは超重要地点。「そうだったのか」って独り合点して読者を置き去りにしないでくださいな。

　機械音の楽章のラストは街いっぱいに響く教会の鐘の音で締めましょう。

「地域アイデンティティとしての音」インタビュー調査

　調査途中の１シーンといった趣でしたけれど、しっかりユニークな論点が切り出されていて、とても興味深く読みました。
　習慣となってしまった鐘の音は、たとえ鳴っていなくても心の中で聞こえ続ける。
　たしかにね。ヨーロッパでも日本でも、鐘の音の聞こえる範囲というのが共同体の範囲でもあったわけで、音の紐帯の強固さの残響なのでしょう。
　除夜の鐘、ちゃんと聞こえているのか、それとも聞いたつもりになっているだけなのか、今年は妙に気になってしまいました。

第三楽章　音そのもの

人の音、機械音と聞いてきて、ここでちょっと休符。
音そのものについて思いを致した６作品をご紹介します。

ラジオCMからのひとつの考察

プラスのデザイン、マイナスのデザインという切り口そのものはおもしろいのですが、かたや文章、かたやラジオCMと、何だか月とスッポンを対置するようなバランスの悪さが、説得力の薄さになってしまっています。
俳句や川柳のようなマイナスの文章表現もたくさんあるし、ね。
どんなに情報過多にみえる、たとえば映画やゲーム世界のような映像表現だって、受け手の想像力で補完しなければ表現としては完結しません。その意味ですべての表現は、そこに受け取り手を想定する限り必然インタラクティブなんじゃないでしょうか。
そのあたり、気づきはユニークだけれど展開が乱暴だったかな、という印象です。
それと文末、「私だけだろうか？」という締め方は、もう使われすぎて陳腐という印象しか与えないので避けたほうが賢明でしょう。

騒音注意

スターバックス訴訟にカクテルパーティ効果に赤ちゃんにヘッドフォン音漏れ。段落ごとにトピックスがくるくる変わるのが災いして、論点をしぼりきれなかった感。
人によって騒音感覚は異なる、じゃあどうすれば？　というところから大問題が出発するわけで、その難題について、とりあえず教訓にしちゃえばまとまるだろ、とやっつけてしまうのでない解法提示が欲しかったです。

より未来形へ。２作品。

ネバーランドへ

「幅って」が読めなかったのですけれど。。。
深海の潜水艦がソナーを目として進むように、景色を音として探知できたら、という発想の夢見加減はよろしかったと思うのですが、ダンプに突っ込ませちゃったのはさすがに、ね。せっかくの幽き(←かそけき、と読みます。辞書引いた。）雰囲気ぶちこわしの感。
それと環境にも依存するのかもしれませんが、やっぱり斜体はとても読みにくい！

聴点で考える

こちらも同じく視覚を聴覚に変える発想ですが、ファンタジーでなく、設計図的にがしがし組み立てたところが特徴でした。
色でなく音色で構成される操作パネル。ありそうな、むりそうな・・・
うーん、ただ色を音に置き換えただけでは構想としては魅力に乏しいのでは。音ならではの特性、たとえば色と違って重ね合わせるときれいな和音になる特徴を活かす設計にしたら、もっと夢がふくらむのでは。

さいごは過去形へ。こちらも２作品。
音の総体から時代を感じさせようという意図と読みました。

ベルリン・天使の詩

体験談でしょうか。だから、安宿で騒ぐ労働者にすっきりした解が与えられないのかも。その混沌を、読者全員が知っているわけでもない映画でまとめようとした構成が無理を呼んでしまった感で、せっかくの貴重な体験がもったいない。
体験談なら「ユカ」でなく「私」のほうが臨場感もアピール力ははるかにまさったでしょうに。

夙川

　大地のうめき声。手あつく重く響かせて、うねりのような余韻を残します。
　抑制の効いた選び抜かれた言葉とともに、完全に個人史として、ご自身の体験だけで構成したことで、ひとことひとことが得がたい一回性を持ち、読み手の心に深く澱みます。「私は・・」と読み手それぞれの〈あのとき〉を語るコメントが多かったのも、この一回性の刺激ゆえでしょう。
　二度と戻らぬ過去へ。人ができることは、ただ記憶すること、祈ることだけのような。
　鎮魂、という言葉を、この作品の前に差し出したいと思います。

第四楽章　音楽

　人の音と機械の音が合わさり、玄妙にして魅惑あふれる音楽へ。
　ここも第一楽章と同じく全17作品。ちょうど三分の一を占めました。さあ、ドレスを選んでコンサートホールへ。

　まずは静かに演奏前の緊張。

「ゴー」音の中で暮らす

　指揮者がタクトを振る前の無音状態。それを「ゴー」音と表現したことがユニークでもあり、違和感でもあり。ほんとにそう聞こえる？
　そして、論理の組み立てについて。真空と同じように、全くの無音状態が人間にとってほんとうに望ましいのかという問いかけは、本源に戻ったようでいて、実は「NO」という答えがもう見えているのでは。
　そこから、ではどんな音が人にとって望ましいのかと積み上げてゆかずに、一足飛びに慣れればいいじゃんという解決策提示では、説得力が薄いです。積み上げをより周到に。

　そして始まります。

休みの「音」

　“ ン ”・ダ・ダ・ダ・ダーン！
　忘れないで休符の意味。休んでいるのではなく、休符を演奏し続けているのです。
　そんなちょっと〈新しい理屈〉が、分かりやすいたとえで、さらり提示されて説得的でした。
　おかずオチも、軽やかでGOOD。

魂のフォルテッシモ

　軍隊ポロネーズ。きっちりなりきって、最初の音を華やかに勇壮に響かせていただきました。
　志の高さや良し、でもあるのですが、いきなり20年修業の一流ピアニストになりきるのは少し背伸びし過ぎかも。「曲に絵をつける」だけではプロのモノローグとしては深みに欠けますし。
　設定を少しトーンダウンさせて、アマチュア演奏会のドキドキに置き換えたら、読者ももっと親近感を持てて、無理なく聴き入ってもらえたのでは。

壮大なる難聴

　巨匠めじろおし。お次はバーンスタインwithウィーンフィルです。
　ストレートに体験談を語っていただいて迫力大なのですが、さすがに「壮大」に「大音響」に「難聴」とフォルテッシモの連打が、「すごいすごいすごい」と同じことばかり聞かされている単調さで、そこにどう緩急を付けるかが指揮者＝作者さんの改善ポイントでしょうか。
　音量のみでひた押しするのでなく、音色(金管の咆哮と弦楽器のユニゾンの迫力は違いますよね）の表現などあると良かったかも。

星のおと

　作曲家さんにスピカから降りた天啓。
　メロディを言葉にするのは、とてもむずかしいでしょうけれど、でもこれでは読者が核心のメロディを全く聴き取れないです。
　どんな色だったのか　澄みきった/あたたか
　どんな気持ちになったのか　穏やか/わくわく
比喩を駆使するなどいろんな切り口で、何とか伝える工夫をしたいところです。

子守唄

　メロディ主題をもうひとつ。
　ル～、ル～、ル～♪　うん、これもやっぱり聞こえてこないですね。
　やさしいお話ですねと受け流すには、ここの読者さんはいろんなものを見てるから、優歌ちゃん、もっと演技力を磨いてくださいな。

　クラシック部門のさいごは、ユニークなステージを２つ、お届けします。

プライド

　本題が出てくるのが遅すぎましたね。華麗なダンサーにいきなり登場していただいたほうが喝采が起きやすかったでしょうに。
　紫雲さんのコメントのように、ダンサーさんのこだわりや我がままがどこまで許されるのかが、この「美談」が成立しうるかどうかのポイントなので、その点へのフォローも欲しかったです。

ある政治家の挑戦

　みなさん、政治家にはキビしいのね、と思わせるコメント陣でした。そうか政治家さんは、余暇に趣味に没頭することも許されないのか、と。
　つねに脚光を浴びていたという伏線が必要なだけだったら、演説好きの校長先生とか、結婚式の司会業さんとか、もっと親近感を持ちやすい例がいろいろあり得たでしょうに、そこを敢えて政治家設定にしたわけは？
　アブラギッシュ・イメージのある政治家さんの、ひたむきな素顔を見せたかったということなのかなと読んでみたのですが、さて？
　「よくできました！！」は、みなさんおっしゃるように、さすがにないよね。作者さんの心の声、でしょうか。

　立派なコンサートホールに出かけなくても、ステージはもっと身近なところにも。

俺の魂の音を聞けえっ！！

　まずは自分の部屋で。
　のめりこんでのハイテンション。アイディアはおもしろい。ただ、わざわざゴチック体にまでしたシャウト部分が、まだまだ説明口調で、これでリズムに乗るのかなあと、そこがいちばんの疑問でした。
　たとえば、「本当に人の心に響く歌声は、歌姫とかいう連中の高く澄んだ美しい声なんかじゃねぇ！！」、これシャウトで行けますか？
　「ディーヴァ？　ざけんな、あんなもん。オンナコドモに呉れてやれ」ってノリかなあと思うのですが、どうでしょ。

my stage

　お約束のお風呂場で。
　こちらもゴチック体歌声でした。いい湯だな♪気分はそこそこ伝わってくるけれど、やはりもう少ししっかり聞かせてから落としたいかな。
　お金のかからないストレス発散法、ぜひぜひ今後も続けてくださいませ。

お茶の時間は旅時間

　くつろぎのリビングで。
　ワルシャワカップが奏でる異国の街角のアコーディオン。知られている曲だけに、くっきり聞こえました。
　旅芸人の記憶に連なるアコーディオン、それはヨーロッパでは差別と迫害の歴史と地続きの音色であり……といったところまで射程が届くと、単なる異国情緒から、もっと内側に入れそうです。

ガラスの音叉

　下駄をつっかけてご近所まで。
　謎なお話です。おばあさんも音叉渡しただけでフォローしてくれないし、るり子さんはただのドジッ娘だし、何やってんだか、という感じなのですが、作者さんの意図は奈辺にあったのでしょうか。おばあさん＝よしお説まで出ましたが。
　恋は自力で成就させるものなんですよ、お嬢さん、ということ？？

waltz_for_debby

　そして、くすんだジャズクラブへ。
　とても馴染んでいた、自分自身の一部であった世界への郷愁。わかるやつだけに受け入れてもらえればいいさ、というおとなの余裕が行間から立ちのぼります。
　ノエさん、三作目にして、ついに思い溢れての長広舌ですね。

音楽について語るときに僕の語ること

　いや、いつでもどこでも。ヘッドフォンさえあれば。
　音空間を持てないがゆえの間に合わせのツールと見なされがちのヘッドフォンに、プラスの意味を付与して、「音の空間に浮かんでいるような感覚」に至るまでの愉しみかたがていねいに開示されたところが個性と読みました。
　でも、この音の追っかけって、ヘッドフォンでないとできないことなんでしょうか。そこの説得力が欲しかった。

音楽と思い出

　いつでもどこでも、だけれども、蘇る思い出はいいことばかりではなくて。
　知られ過ぎてるパブロフの犬には、よだれを垂らしつつご退場いただいたほうがよろしいでしょう。
　そして曲名、少なくとも曲調についての言及が欲しかったです。そうすれば、ピンポイントで読者さんのツボを刺激して、わかるわかるコールにももっと気合いが入ったでしょうに。
　これだと、核心部分が霞の中なので、うん、そういうこともあるかもね、で終わってしまいます。
　まあ、活さんおっしゃる「かきむしるパワー」へ届くのは、なかなかたいへんではあるのですが。

江戸隠密五人衆

　出現場所不明。出ました戦隊モノ。作者さんの楽しんでる感が〇でしたけれど、そんな簡単にオダブツになってしまうイエローで、いいんでしょーか。ドミソ念仏で復活を遂げてほしかった。
　やっぱり、お子様モノはめでたしめでたしでなくっちゃ！

ハルの歌

　そして最終ステージへ。
　これがリコーダーが吹けない子供の乗り越え物語だったら、あたたかなホームドラマですね、で済んだのでしょうけれど、差し込まれたピースが〈障害〉であったがゆえに、にわかにシリアスな、痛みをともなうドラマになりました。そこまでの意図が若い作者さんにあったかどうか・・・
　感動の外側に口を開ける深淵の存在を、レベルの高いコメント陣がするどく指摘してくれたことによって、この作品は読者との協奏を目的とするこのプラネットのステージで、今回いちばん豊かな音色を奏でた作品であったように思います。障害論の重みという個別性から、いとしい人への思いという普遍まで、読み手によってこうも振幅が大きかったのは、作品の力とともに、読者層の厚みのあらわれに他ならないのでは。
　作者さんと読者さんに、ありがとう！